

# TR3シリーズデモソフト 取扱説明書

(TR3Demo2, TR3Lanc2, TR3Gate1)

2002年8月23日

修正 2008年4月17日

Ver 1. 1 1

1.	概要.....	6
1. 1	適用範囲.....	6
1. 2	インストール (添付CD-ROMからのコピー) .....	6
1. 3	複製.....	6
1. 4	著作権.....	6
1. 5	免責.....	6
1. 6	ソフト動作環境.....	6
1. 7	ソフト動作手順.....	7
1. 8	注意.....	7
2.	通信インターフェース.....	8
3.	機能について.....	8
4.	動作モードについて.....	9
4. 1	動作モード.....	9
4. 1. 1	コマンドモード.....	9
4. 1. 2	オートスキャン (データ受信) モード.....	9
4. 1. 3	連続インベントリモード.....	9
4. 1. 4	トリガーモード.....	10
4. 1. 5	ポーリングモード.....	10
4. 1. 6	EASモード.....	10
4. 1. 7	RDLOOPモード.....	10
4. 2	LEDについて.....	11
4. 2. 1	2色LED (R/Wモジュールに実装) .....	11
4. 2. 2	2色LED (据え置きタイプのR/Wに付属) .....	11
4. 3	ブザーについて.....	11
5.	起動.....	12
5. 1	シリアルポートのオープン.....	12
5. 2	PC側のTCP/IPの設定.....	13
6.	メイン画面の機能について.....	14
6. 1	メイン画面.....	14
6. 2	タグの動作モードの設定.....	15
6. 3	R/Wの動作モードの設定.....	16
6. 3. 1	読み取りモード.....	17
6. 3. 2	アンチコリジョン.....	17
6. 4	タグデータの書き込み.....	18
6. 4. 1	書き込み時の応答.....	18

6. 5	オートスキャンモード	19
6. 5. 1	タグの読み取りができなかった場合	19
6. 6	連続インベントリモード	20
7.	汎用コマンド	21
7. 1	リスタート	21
7. 2	ブザー鳴動	21
7. 3	LED制御	21
7. 4	ROMバージョンの取得	21
7. 5	汎用入出力ポートからの読み込み	22
7. 6	汎用入出力ポートへの書き込み	22
7. 7	送信	22
7. 8	パワーダウンモード	22
7. 9	パワー状態の取得	22
7. 10	エラー状態の取得	22
7. 11	READBYTES	23
7. 12	WRITEBYTES	23
7. 13	READLOOP	24
7. 14	UIDの数の取得	25
7. 15	UIDデータの取得	25
7. 16	シンプルリードコマンド	26
7. 17	TAG DATA	26
8.	ISO15693 コマンド	27
8. 1	INVENTORY	28
8. 2	INVENTORY2	28
8. 3	STAYQUIET	29
8. 4	READSINGLEBLOCK	29
8. 5	WRITESINGLEBLOCK	30
8. 6	READMULTIBLOCK	31
8. 7	WRITEMULTIBLOCK	31
8. 8	SELECTTAG	32
8. 9	RESETTOREADY	32
8. 10	WRITEAFI	33
8. 11	WRITEDSFID	33
8. 12	GETSYSTEMINFO	34
8. 13	GETMBLOCKSECST	34
8. 14	READ1BLOCK (SELECT)	35
8. 15	WRITE1BLOCK (SELECT)	35
8. 16	LOCKBLOCK、LOCKAFI、LOCKDSFID、LOCK2BLOCKS	35
8. 17	コマンドダイアログの実行	36
9.	MY-Dコマンド	37

9. 1	READ.....	37
9. 2	WRITE.....	37
10.	設定.....	38
10. 1	R/Wの動作モードの設定.....	38
10. 2	アンテナ切替の設定.....	38
10. 3	アンテナの選択.....	38
10. 4	I/Oポートの設定.....	38
10. 5	EASモードの設定.....	39
10. 6	R/Wのパラメータ設定.....	40
10. 6. 1	RS485 IF用、R/W ID値設定について.....	40
10. 6. 2	リトライ回数の設定について.....	40
10. 6. 3	ブロックサイズについて.....	41
10. 6. 4	R/WのAFI値の設定.....	41
10. 6. 5	RDLLOOPモード読み出しブロック設定.....	41
10. 6. 6	RDLLOOPモード読み出しデータ長.....	41
10. 6. 7	アンチコリジョンの設定.....	41
10. 6. 8	インベントリコマンド時のAFI値.....	41
10. 6. 9	インベントリ時のトリガー入力について.....	41
10. 6. 10	ブザー種別の設定 (ハード設定).....	41
10. 6. 11	IOPORT3の機能.....	41
10. 6. 12	ノーリードコマンド.....	42
10. 6. 13	シンプルライトコマンド時UIDを使用.....	42
10. 6. 14	タグの選択.....	42
10. 7	環境設定.....	43
10. 7. 1	動作環境ダイアログの説明.....	43
10. 7. 2	UID指定.....	44
10. 8	環境設定のデバッグ.....	45
10. 9	アンテナ切替を行う場合の表示画面設定について.....	46
10. 9. 1	「受信データ」表示画面上にR/Wから受信したアンテナ番号を表示する場合.....	46
10. 9. 2	「受信データ」表示画面上にゲートシステムから受信した入出方向を表示する場合.....	46
11.	シリアル/USB接続専用設定.....	47
11. 1	COMポートの選択.....	47
11. 2	通信パラメータ.....	47
11. 3	通信スピードの設定.....	48
11. 4	ポートチェック.....	48
12.	LAN接続専用設定.....	49
12. 1	LAN接続の設定.....	49
12. 2	PINGの実行.....	50
13.	TR3GATE1用設定.....	51

1 3 . 1	動作モード	53
1 3 . 2	EEPROMデータ	54
1 3 . 3	表示&出力状態	58
1 3 . 4	センサー状態表示	59
1 3 . 5	人数カウント設定	61
1 3 . 6	人数カウントデータ	62
1 3 . 7	人数カウントのタイミングのリセット	63
1 3 . 8	人数カウントダイアログ	63
1 3 . 9	表示&出力状態 (G003 用)	64
1 3 . 1 0	カウント値 (G003 用)	66
1 3 . 1 1	電子ボリューム値 (G003 用)	66
1 3 . 1 2	G003 ROMバージョン (G003 用)	66
1 3 . 1 3	G003 機種名取得 (G003 用)	66
1 3 . 1 4	人数カウントダイアログ (G003 用)	67

# 1. 概要

## 1. 1 適用範囲

本取扱説明書は、TR3 シリーズデモソフトの機能について解説します。尚、使用するリーダーライタ（以後R/W）のインターフェース（以後I/F）により以下のデモソフトをご使用ください。

デモソフト	対応
TR3Demo2	シリアル/USB I/F 用, TR3-CF002
TR3Lanc2	LAN I/F 用
TR3Gate1	TR3-G001A, TR3-G002, TR3-G003 用

各デモソフトに対して、

1 項～10 項：共通項目

1 1 項 : TR3Demo2 及び TR3Gate1

1 2 項 : TR3Lanc2 及び TR3Gate1

1 3 項 : TR3Gate1

の説明となります。

尚、本ソフトは、1 種類の可変長データの書き込み及び読み取りを行う機能とタグの読み取り距離の確認及び動作確認の為に連続インベントリモードを備えています。

## 1. 2 インストール（添付CD-ROMからのコピー）

お客様は、TR3 シリーズのR/Wの評価用に1台のコンピュータにのみ、本ソフトウェアをコピーし使用することが出来ます。弊社に許可なく第三者への販売、供与することは出来ません。

ソフトを使用するには、TR3\*\*\*.exe を適当なフォルダにコピーし、実行してください。

CD-ROM 参照先：デモソフトフォルダ内(各種R/W別となります)

**注意：** ・保存した ini ファイルは、「読取専用」となっていますので「読取専用」のプロパティのチェックを外してください。

・デモソフトと ini ファイルは同フォルダ上にコピーしてください。

## 1. 3 複製

本ソフトウェアの複製は、バックアップ用のコピーを除き、複製を行うことはできません。

## 1. 4 著作権

本ソフトウェアの著作権は、開発元である弊社に帰属するものとします。

## 1. 5 免責

弊社は、本ソフトウェアの使用または使用不可能から生じた損害（事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これらに限られないものとします）に関して、いっさい責任を負いません。

たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされた場合も同様とします。

## 1. 6 ソフト動作環境

動作パソコン：DOS V 互換機

動作OS : Windows

(動作確認 OS : Windows 9 8、Windows2000、WindowsXP)

I/F : RS-232C (ケーブル：クロス)、USB

: LAN 10/100 BASE-T

・ハブ経由でPCと接続する場合 : ストレートケーブル

・PCとダイレクトに接続する場合 : クロスケーブル

## 1. 7 ソフト動作手順

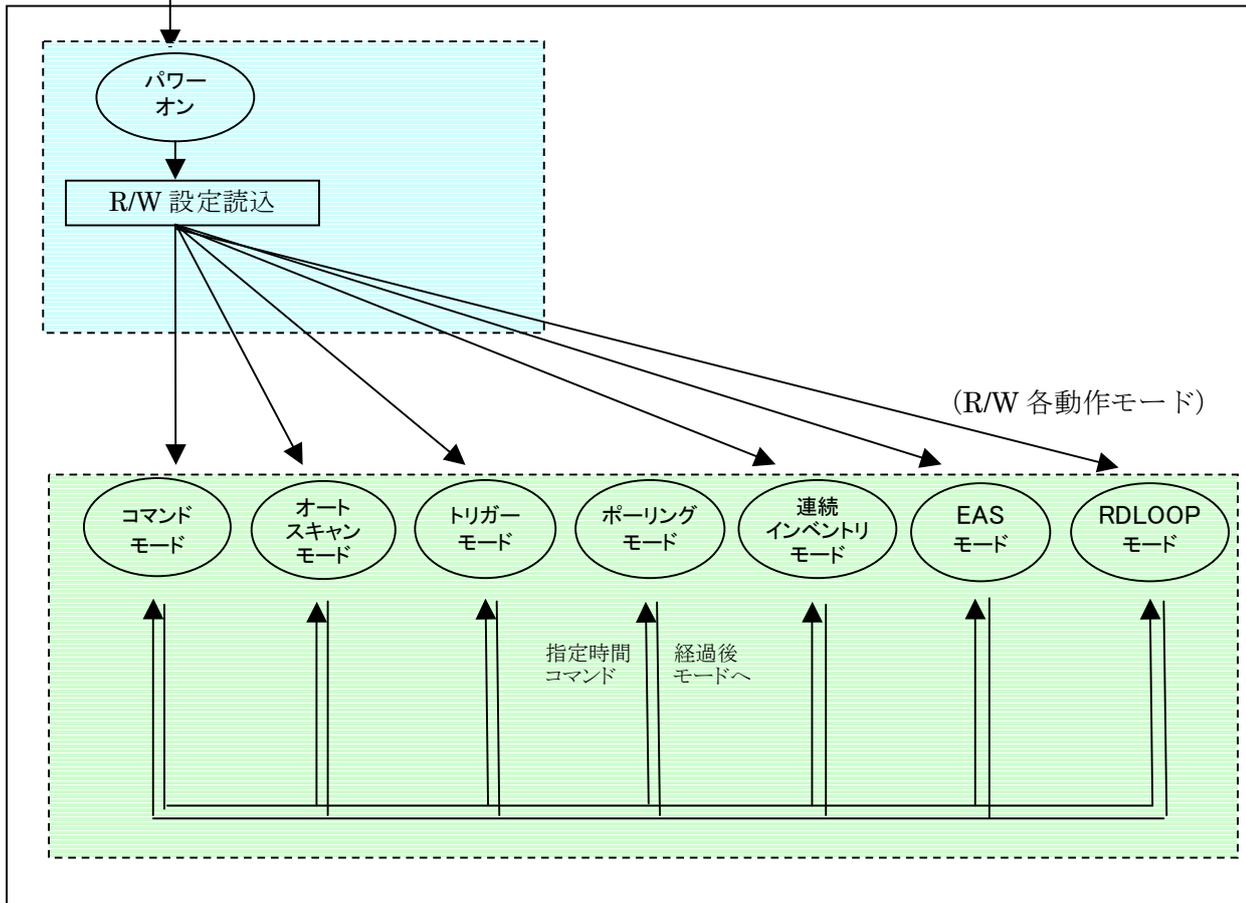
TR 3シリーズR/Wの接続準備

- ・アンテナは、R/Wへ接続
- ・RS232C クロス、USB、LAN ケーブル、は、上位 PC へ接続

※R/W本体の故障の原因となる可能性がありますので、アンテナと本体の接続を確認後、本体の電源をONしてください。

R/Wの電源ON

本アプリケーションソフトを起動



### 移行条件

- ・工場出荷時のデフォルトの動作モードは、コマンドモードです。
- ・パワーオンリセット後は、R/W内部のEEPROM内に設定されているモードにて動作します。
- ・コマンドモード以外の動作モードから、目的の動作モードに移行する場合は、一度コマンドモードに移行後、目的の動作モードに移行してください。
- ・ポーリングモードのみ、ポーリング時間経過後は、自動的にコマンドモードに戻ります。

## 1. 8 注意

- ・本文中に記載のWindowsは米国Microsoft Corporationの、米国及びその他の国における登録商標です。
- ・本文中に記載のTag-it HF-IはTexas Instruments社、my-dはInfineon Technologies社、I・CODE SLIはNXP社の商標、または登録商標です。

## 2. 通信インターフェース

R/Wは、シリアル（RS-232C又はC-MOSレベル）、USB、LANタイプなどのインターフェースを経由し上位コンピュータからコントロールすることができます。

PCと接続する場合、R/Wは下記のデバイスとして認識され通信が行えます。

R/WのI/Fタイプ	PC上の認識デバイス	TR3付属ドライバー有無	通信について
シリアル	通信ポート(COM)	無	シリアルデータとして扱います COMポートをオープン後、後述の通信フォーマットによりHEXデータを通信
USB	通信ポート(COM)	有 (付属専用USBドライバー使用)	シリアルデータとして扱います COMポートをオープン後、後述の通信フォーマットによりHEXデータを通信
LAN	ネットワークアダプタ(LAN)	無	Socketのメッセージデータとして扱います TCP/IPのコネクション接続後、後述の通信フォーマットによりHEXデータを通信
CF	通信ポート(COM)	無 (OSの標準ドライバー使用)	シリアルデータとして扱います COMポートをオープン後、後述の通信フォーマットによりHEXデータを通信

CFタイプR/WをPDAに接続する場合は、デモソフトが異なります。(TR3Check2003.exeとなります)

ソフトの説明は、「TR3Check2003取扱説明書」をご覧ください。

シリアル通信の場合

シリアル通信のフォーマット	
ボーレート	9600/19200(デフォルト)/38400 bps (38400bpsは、ROMバージョン1.21以降のみ対応)
データ長	8ビット
スタートビット	1ビット
ストップビット	1ビット
パリティ	無し

注意) TR3-C101、TR3-CF001 は、38400bps未対応

## 3. 機能について

本アプリケーションに備えられている機能

- ・タグ及びR/Wの通信モードの設定
- ・R/Wの動作モードの設定
- ・タグへのデータの書き込み機能
- ・タグからのデータの読み取り機能
- ・タグのUID読み取り機能

## 4. 動作モードについて

### 4. 1 動作モード

TR3シリーズ R/Wには次の7つの動作モードがあり、本ソフトにて動作確認することが出来ます。

#### 4. 1. 1 コマンドモード

上位機器から送信されるコマンドに従い処理を実行するモードです。

コマンドモードのR/Wは、上位コマンド制御以外ではICタグのスキャンを行いません。

ISO15693関係のコマンドを実行する場合は、このモードにて行います。

#### 4. 1. 2 オートスキャン (データ受信) モード

上位機器からR/Wにコマンドを送信することなく、R/Wが単独でタグデータ読み取り状態となり、アンテナエリア内にあるICタグのデータを受信するモードです。

ICタグのデータを受信すると、受信データを上位機器に送信します。

このモードで受信可能なデータは、専用の書込コマンド (シンプルライトコマンド) で書き込まれた独自フォーマットのデータとなります。

シンプルライトコマンドは、ICタグメモリのブロックサイズには関係なく、1つの可変長データとして書き込みを行うコマンドです。

このフォーマットで書き込みおよび受信可能な最大データ長は、R/Wによる制限値、ICタグによる制限値のどちらか少ないデータ長となります。

##### <R/Wによる制限値>

R/Wにより受信可能なデータ長が異なります。

TR3-C201の場合は、最大249バイトの受信が可能です。

(デモソフトを使用した場合、ソフト側に最大200バイトの制限があります。)

##### <ICタグによる制限値>

ICタグによりユーザーメモリ容量は異なります。

このフォーマットで使用可能なデータ長は、[ICタグユーザーメモリ-6] バイトとなります。

ICタグのユーザーメモリが112バイトの場合、このフォーマットで使用可能なデータ長は

112-6=106バイト となります。

タグへの書き込みは、このアプリケーションにより行うことができますが、書込みフォーマットについては、非公開とさせていただきます。

#### 4. 1. 3 連続インベントリモード

タグのUID (タグ固有のユニークID) を連続で受信するモードです。

このモードも、上位機器からR/Wにコマンドを送信することなく、R/Wが単独でタグUIDデータ読み取り状態となり、アンテナエリア内にあるICタグのUIDデータを受信するモードです。

ICタグのUIDデータを受信すると、受信したUIDデータを上位機器に送信します。

- ・ROMバージョン1.21以降のR/Wは、アンチコリジョン対応。
- ・TR3-C101は、アンチコリジョン未対応

#### 4. 1. 4 トリガーモード

外部からのトリガー信号が有効な間だけICタグのデータを受信するモードです。

ICタグのデータを受信すると、受信データを上位機器に送信します。

このモードで受信可能なデータは、専用の書込コマンド（シンプルライトコマンド）で書き込まれた独自フォーマットのデータとなります。

トリガー信号は、[上位インターフェイス接続用コネクタ]のIO2に入力します。

この端子はC-MOSレベルの入力で、“L”でトリガー信号が有効となります。

据置タイプのR/Wは、外部からトリガー信号を入力出来ない為このモードは使用できません。

#### 4. 1. 5 ポーリングモード

上位機器からの指定時間の間だけICタグのデータを受信するモードです。

コマンドモードのR/Wに対し、指定のコマンドを送ることによりポーリングモードに移行します。指定時間は、コマンド送信時にあわせて設定します。

指定時間を過ぎるとコマンドモードに戻ります。

ICタグのデータを受信すると、受信データを上位機器に送信します。

このモードで受信可能なデータは、専用の書込コマンド（シンプルライトコマンド）で書き込まれた独自フォーマットのデータとなります。

#### 4. 1. 6 EASモード

タグのAFIを利用し特定のAFI値を持つタグを検出するモードです。このモードは、上位機器からR/Wにコマンドを送信することなく、アンテナエリア内にあるタグの検出を行います。また、ICタグを検出すると、検出情報を上位機器に送信します。但し、タグのUIDは返しません。

AFI値の設定方法について

- ・R/W : 「AFI値の設定」コマンドでR/Wへ設定
- ・タグ : 「Write AFI」コマンドでタグへ書き込み

尚、このモードには、コマンドモードのR/Wに対し、指定のコマンド（汎用制御コマンドの「動作モードの設定」）を送ることにより移行できます。

EASモードは、不正持ち出し防止、万引き防止、などの用途で使用できます。

#### 4. 1. 7 RDLOOPモード

上位機器からR/Wにコマンドを送信することなく、R/Wが単独でタグデータを読み取る状態となり、アンテナエリア内にあるICタグのデータを受信するモードです。また、ICタグのデータを受信すると、受信データを上位機器に送信します。

尚、このモードには、コマンドモードのR/Wに対し、指定のコマンド（汎用制御コマンドの「動作モードの設定」）を送ることにより移行できます。

オートスキャンモードの受信可能なデータは、専用の書込コマンド（シンプルライトコマンド）で書き込まれた独自フォーマットですが、ISO15693コマンドにて書き込まれたデータを自動読み取りする場合には、このモードを使用することで対応が可能になります。

このモードは、オートスキャンモードと異なり、あらかじめデモソフトによる設定が必要となります。  
R/Wに下記の項目を設定後、設定範囲のタグデータを読み取ることができます。

読み取り開始ブロック：0～255

データ長：MAX 247バイト

注) 対応ROMバージョンは、1.21以降となります。

## 4.2 LEDについて

### 4.2.1 2色LED (R/Wモジュールに実装)

システムエラー時	赤点滅 (この場合, はデータの読み取りは出来ません)
コマンドモード時	消灯 (スキャンしていない時)
オートスキャン時	赤点灯 (データを読み取っていない時) 緑点灯 (データ読み取り時)
インベントリ時	赤点灯 (UIDデータを読み取っていない時) 緑点灯 (UIDデータ読み取り時)
ポーリングモード	緑点灯 (データ読み取り時)
トリガーモード	緑点灯 (データ読み取り時)

尚、データ読み取り時の点灯時間は、1回の読み取りで500msです。(デフォルト)

### 4.2.2 2色LED (据え置きタイプのR/Wに付属)

+5V供給時	緑点灯
シンプルリード時	オレンジ点灯 (データ読取時)
Inventory発行時	オレンジ点灯 (データ読取時)

(Inventory2においても同じ)

## 4.3 ブザーについて

ブザーを「使用する」に設定している時、以下の場合に鳴動します。

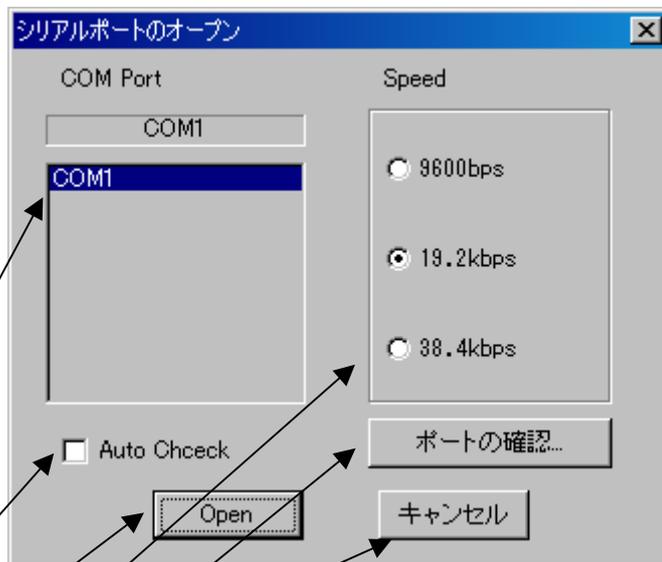
- ・POWER ON時
- ・データ受信時
- ・連続インベントリモードでは、UIDデータ受信時

## 5. 起動

### 5. 1 シリアルポートのオープン

TR3Demo2、TR3Gate1(シリアル接続用)デモプログラムを起動した場合、シリアルポート設定のダイアログが開きます。

ここでは、通信の初期設定としてCOMポートと通信速度の設定を行ってください。  
設定が完了しましたら、「Open」をクリックしてメイン画面を開きます。



デモソフトを終了します。

システムのプロパティを開きます。デバイスドライバーで割り振られた  
COMポート番号を確認する事が出来ます。

R/W の設定に合わせ、通信速度を選択してください。(R/W デフォルト : 19.2kbps)

選択した通信設定でポートオープンします。

チェックを入れて Open すると、選択可能な COM Port から自動で探索し、接続  
します。

使用可能な COM ポートが表示されます。 実際の接続と合わせて選択してください。

## 5.2 PC側のTCP/IPの設定

TR3Lanc2、TR3Gate1(LAN接続用)デモプログラムを起動した場合、TCP/IP設定のダイアログが開きます。

- ・クライアントモード/サーバモードのどちらで起動するかを設定（接続後でも変更可能です）
- ・クライアントモードで接続する場合は、接続先のIPアドレスとポート番号を入力してください。
- ・サーバモードで接続する場合は、  
ダイアログ下部の「PCのTCP/IPの設定」よりサーバとなるIPアドレスを選択し、  
PCのポート番号を入力してください。

R/W側のIPアドレス、ポートの設定には、同梱ソフトNETBSetのご利用をお薦めします。

**NETBset1.exe 設定画面**

※ 設定方法詳細は、「NETBSet1 取説」をご参照ください。

サーバモードで接続する  
場合に設定する箇所

クライアントモードで接続  
する場合に設定する箇所

「ネットワーク接続」をクリックすると、ネットワーク接続の設定画面が開きます。(Windows98未対応)

## 6. メイン画面の機能について

### 6. 1 メイン画面

以下が、メイン画面となります。

The screenshot shows the main interface of the TR3シリーズ デモプログラム. The window title is "TR3シリーズ デモプログラム". The menu bar includes "ファイル(F)", "汎用コマンド(M)", "ISO15693コマンド(I)", "my-dコマンド(M)", "カスタムコマンド(C)", "設定(Z)", and "ヘルプ(H)". The toolbar contains icons for "受信データ" (Receive Data), "ログ" (Log), and several command icons. A status bar at the bottom shows "有効" (Enabled), "COM1", "19.2kbps", and "再接続" (Reconnect). A blue oval highlights the "有効" checkbox, "COM1" dropdown, "19.2kbps" dropdown, and "再接続" button. A text box explains: "「有効」チェック後、ポートの切り替えが可能です。(通常使用時、変更の必要はありません)".

タグ、R/W間の通信モードの設定 (コマンドモードにて行う)

動作モードの設定 (コマンドモードにて行う)

タグへのデータの書き込み (コマンドモードにて行う)

コマンドモードへの移行

オートスキャンモードへの移行

連続インベントリモードへの移行

「有効」チェック後、ポートの切り替えが可能です。  
(通常使用時、変更の必要はありません)

設定の「環境設定」によりコマンド動作環境を設定します。(コマンドモードにて行う)

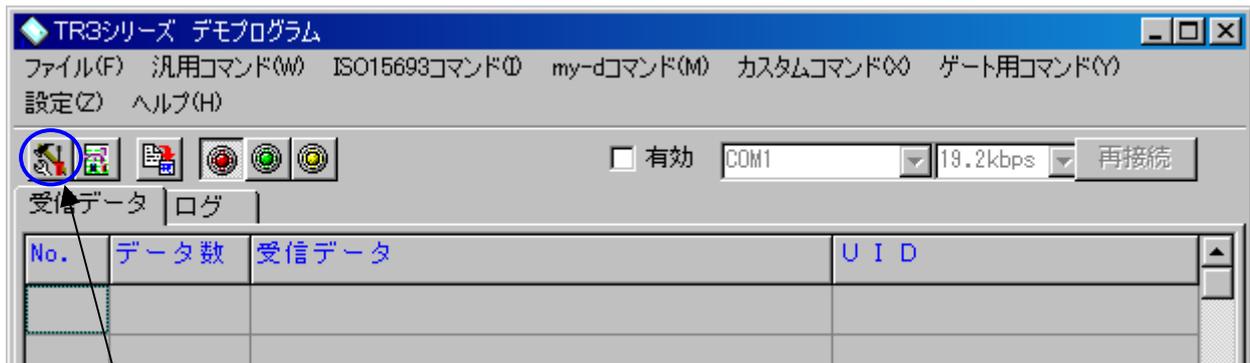
My-dタグのリード/ライトのコマンドを実行します。(コマンドモードにて行う)

ISO15693のコマンドを実行します。(コマンドモードにて行う)

コマンドの履歴、結果を表示します。

受信データを表示します。

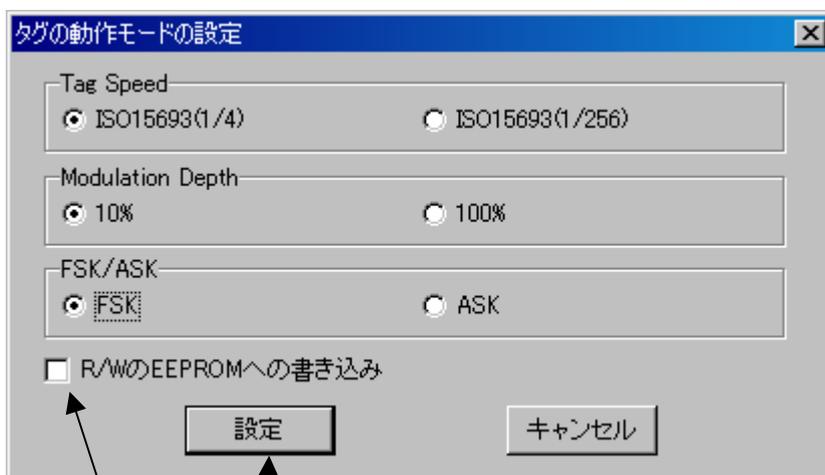
## 6. 2 タグの動作モードの設定



ここをクリックするとタグの動作モードの設定画面が開きます。

データ転送速度と変調度の変更が可能です。

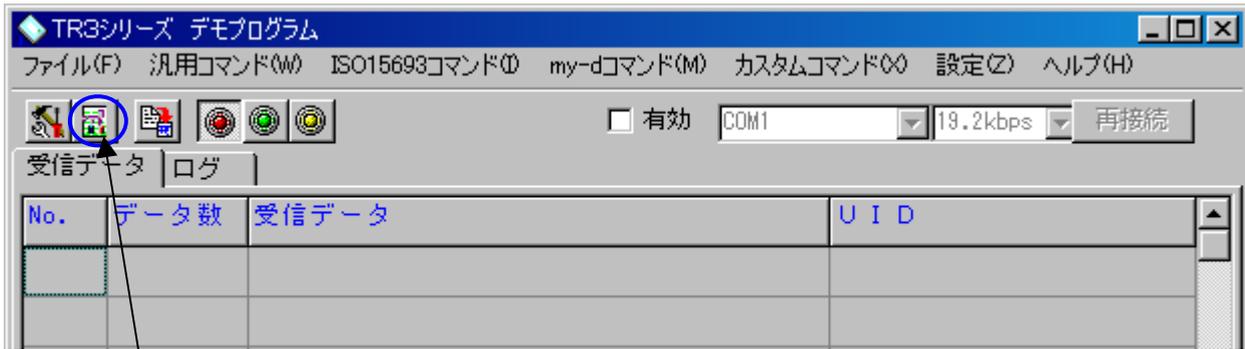
デフォルトは、1/4設定・10%変調・FSK変調となっています。



指定内容で、R/Wに設定します。

ここを、チェックして設定を行うと、R/W内部のEEPROMに設定を書き込み、  
次回パワーオン時に、同じ設定モードで立ち上がります。

### 6.3 R/Wの動作モードの設定



R/Wの動作モードを設定するダイアログを開きます。

このアプリケーションでは、以下の動作モードは、通常コマンドモードにしてご使用ください。

1. コマンドモード
2. オートスキャンモード
3. トリガーモード
4. ポーリングモード
5. 連続インベントリモード
6. EASモード
7. RDLOOPモード

R/Wの通信速度設定

データ読み取り成功の場合、ブザーを鳴らすかどうかの設定

オートスキャンモード時、UID データも一緒に返送するかどうかの設定

ここをチェックして設定を行うと、R/W内部のEEPROMに設定を書き込み、次回パワーオン時に、同じ設定モードで立ち上がります

注) RDLOOPモードの対応ROMバージョンは、1.21以降となります。

上記の動作モード以外は、社内評価用に使用しているものであり、正式なサポートではありません。

### 6. 3. 1 読み取りモード

#### シングル読み取り：

アンテナ読取範囲内にあるタグのデータを一度だけ読み取るモードです。

タグを読取範囲から外すと再度読み取り可能となります。

上記モード1～7の全てのモードで反映されます。

#### 連続読み取りモード：

アンテナ読取範囲内にあるタグを連続で読み取るモードです。

上記モード1～7の全てのモードで反映されます。

### 6. 3. 2 アンチコリジョン

#### 単独読取モード：

アンテナ読取範囲内にタグが1枚のみ存在する場合の読み取るモードです。

アンテナ読取範囲内にタグが複数枚存在する場合、このモードではタグのデータの読取はできません。

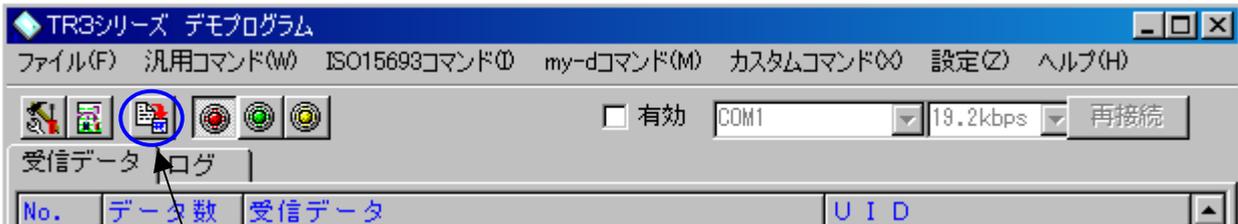
上記モード2～7のモードで反映されます。

#### 複数同時読取モード：

アンテナ読取範囲内にある複数枚のタグのデータを読み取るモードです。

上記モード2～7のモードで反映されます。

## 6. 4 タグデータの書き込み



タグデータの書き込みを行うダイアログを開きます。

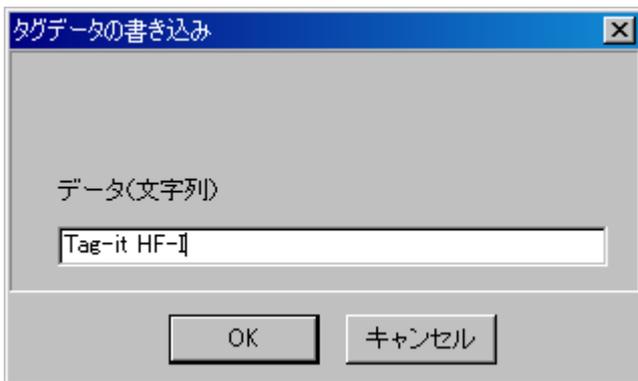
以下のダイアログにより可変長のアスキーデータの書き込みが可能です。ここでの書き込みにより、オートスキャンモードでの読取が可能となります。

注)

- 書き込み文字数は、書き込むタグのメモリーサイズに依存しますが、最大200バイトまでの書き込みが可能です。

(R/Wでは、249バイトまでの書き込みが可能です。アプリケーションでは、200バイトまでの書き込みとなります。タグの種類によっては、タグメモリー容量の関係で200バイトまで書き込みできない場合がありますのでご注意ください。)

- 書き込みフォーマットは、非公開とさせていただきます。



このように書き込みデータの入力を行った後、「OK」ボタンを押すと、タグヘデータを書き込みます。(タグの書き込みは、1枚ずつ行ってください。)

### 6. 4. 1 書き込み時の応答

成功時： ブザーが1回鳴ります

失敗時： ブザーが3回鳴ります

この場合、次の原因が考えられます。

原因	対策
環境設定が間違っている	メイン画面の「設定」内の「環境設定」メニューにより対応タグの設定や動作環境を再設定後、再度タグの書き込み動作をしてください
アンテナの周囲環境の影響による書き込みエラー	机とアンテナ間の距離をとり、アンテナとタグ間の距離を変えて再度タグの書き込み動作をしてください
入力文字数が多い	入力文字数を減らして再度タグの書き込み動作をしてください。





## 7. 汎用コマンド

### 7. 1 リスタート

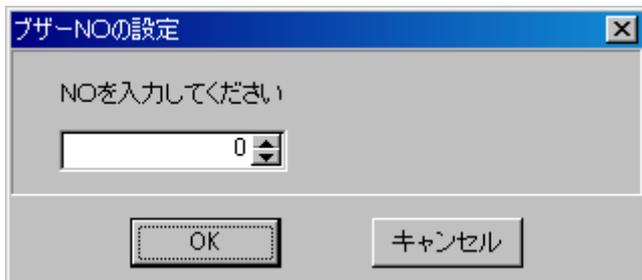
R/Wをリスタート（再起動）します。

R/Wの各種設定やパラメータは、EEPROM に書き込まれている設定で立ち上がります。

### 7. 2 ブザー鳴動

ブザー音 1 : ブザー音 1 を一度鳴らせます。

ブザー音 2 : 以下のダイアログが立ち上がります。



ブザーNo を入力してください。

OK ボタンでブザーNo に対応したブザー音が鳴ります。

#### ブザー音 2 No

- 0 : ピー
- 1 : ピッピッピッ
- 2 : ピッピー
- 3 : ピッピッピー
- 4 : ピー
- 5 : ピーピーピーピー
- 6 : ピー——
- 7 : ピッピッピッピッピッ (早い)
- 8 : ピッピッピッピッピッ (遅い)

### 7. 3 LED制御

R/W モジュール上に実装された LED の制御を行います。

このコマンド実行後、R/Wの動作モードを変更すると、LEDの動作モードが変更されますのでご注意ください。



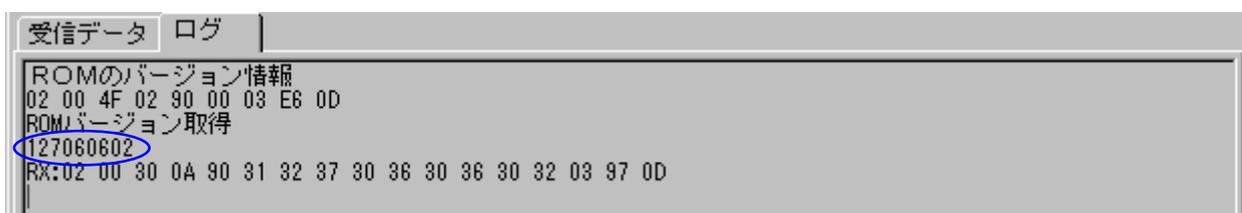
- ・ 指定時間 ON/OFF
- ・ 点滅
- ・ 常時 ON/OFF

緑色 LED と赤色 LED を同時に点灯させることも可能です。

常時 ON/OFF モードを選択した場合、点灯時間は無視されます。

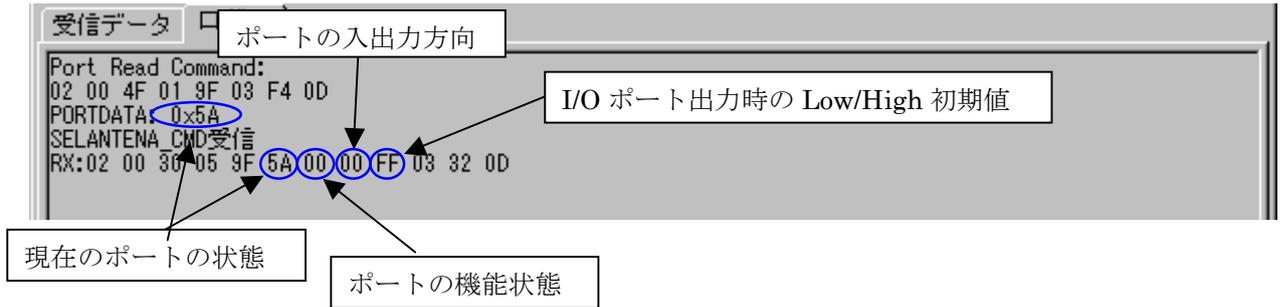
### 7. 4 ROMバージョンの取得

R/W の ROM（ファーム）バージョンを表示します。



### 7. 5 汎用入出力ポートからの読み込み

入出力ポートの値の取得を行います。例えばTR3-C201のようなR/Wを機器組み込みで使用し、汎用ポートの値を読みたい時などに使用します。



### 7. 6 汎用入出力ポートへの書き込み

汎用入出力ポートへの書き込みを行う時に使用します。

このコマンドは、出力ポートとして使用する様に設定した場合のみ有効となります。

ポートの設定は、「I/Oポートの設定」で行ってください。

### 7. 7 送信

R/Wが出す送信電波（キャリア）のON/OFF制御を行います。スタンバイ時に上位制御で送信電波をOFFし、何らかのトリガー又はイベントを受け、上位制御で再度送信電波をONするなど、不要な電波出力をおさえることができます。

### 7. 8 パワーダウンモード

パワーダウンモードに設定します。

詳細については、通信プロトコル説明書4-1「パワーダウンモードの遷移について」を参照ください。

### 7. 9 パワー状態の取得

RF部のパワー状態の取得を行います。

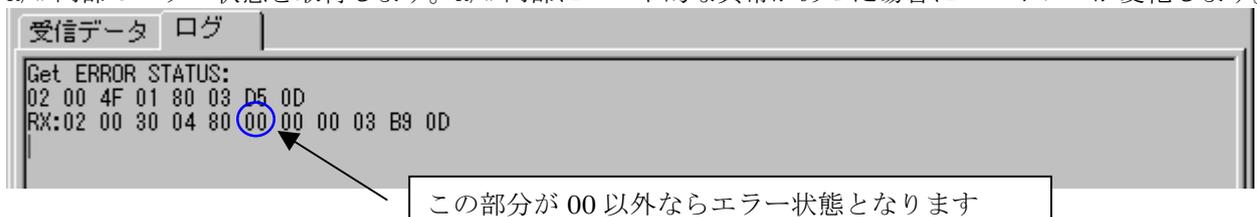


bit0 : 1 --> TX OFF (キャリア出力OFF) 状態      0 --> TX ON (キャリア出力ON) 状態

bit1 : 1 --> POWER DOWN (Wait or Stop)状態      0 --> 電源ON Ready状態

### 7. 10 エラー状態の取得

R/W内部のエラー状態を取得します。R/W内部にハード的な異常があった場合にレスポンスが変化します。

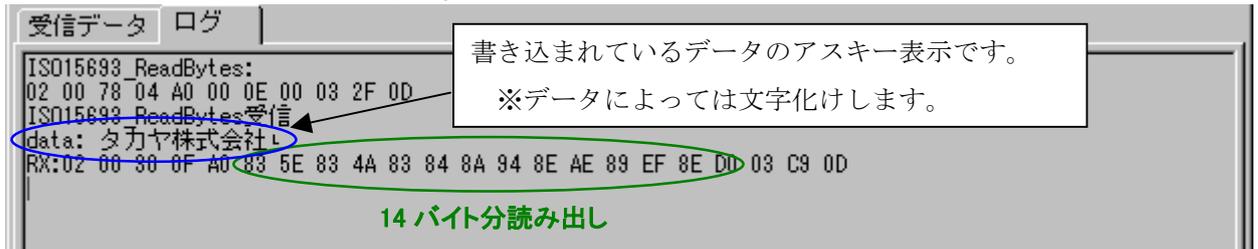


## 7. 11 ReadBytes

読み出し開始ブロック No 及びブロック数を入力してください。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



ReadBytes コマンドは、タグデータをバイト単位で読み出すことが可能なコマンドです。

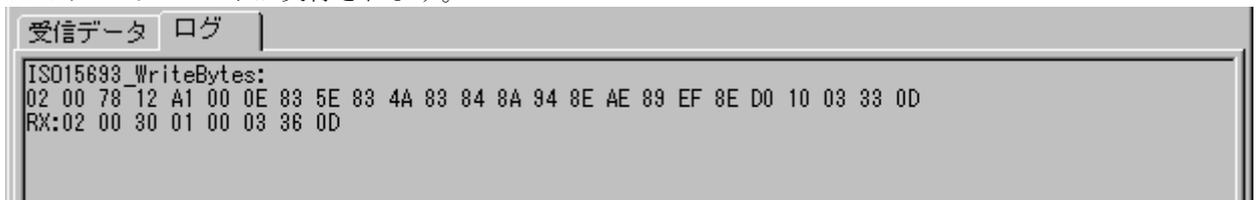
My-d タグに対して ReadBytes コマンドを実行した場合、タグ固有コマンドである「Myd\_Read」と同様に、0 ブロック目のデータから読み出すことができます。

## 7. 12 WriteBytes

書き込み開始ブロック及び書き込むデータを入力してください。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



WriteBytes コマンドは、タグデータを指定データ長分書き込むことが可能なコマンドです。

但し、書き込みはブロックサイズ整数倍のデータを書き込んでください。

書き込みはブロック単位で行うため、書き込むデータがブロックサイズの整数倍ではない場合、書き込むデータ長の最終ブロックの箇所には不定のデータが入ります。

My-d タグに対して WriteBytes コマンドを実行した場合、タグ固有コマンドである「Myd\_Write」と同様に、3 ブロック目からデータを書き込むことができます。(My-d タグは0~2 ブロックに保護がかかっています)

## 7.13 ReadLoop

ReadLoop コマンドの設定です。

ReadLoop コマンドは、タカヤ独自読取モード（RDLOOPモード）と同様の読取機能を持ち、上位側コマンド制御により、指定ブロックから指定データ長を読み取る為のコマンドです。

コマンド受信後、RDLOOPモード2という読取モードへ移行しますが、動作モード設定コマンドによるモード指定は、直接行えません。

The screenshot shows the 'Read Loop コマンド' dialog box. It is divided into two main sections: 'モード指定' (Mode Specification) and '読み出し設定' (Readout Settings). The 'モード指定' section contains several radio button options for controlling the device's behavior during data reception. The '読み出し設定' section includes input fields for the start block and data length, and a checkbox for AFI specification. Callout boxes provide detailed instructions for each setting.

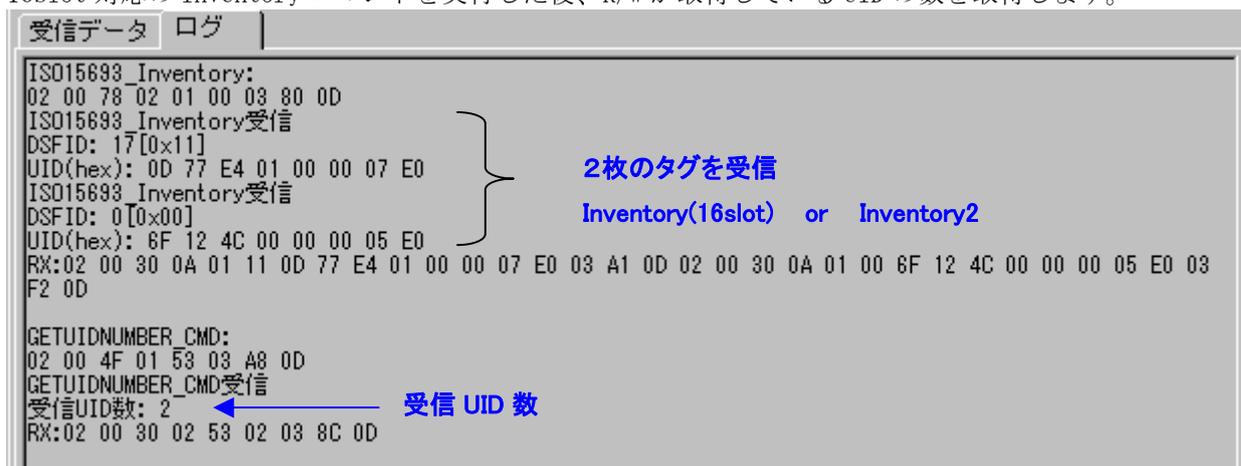
設定項目	設定内容	説明
連続/データ受信後コマンドモードへ移行	<input checked="" type="radio"/> 連続 <input type="radio"/> 移行	データを受信した後はコマンドモードへ遷移するように設定可
受信データが無いときのレスポンス	<input checked="" type="radio"/> 返さない <input type="radio"/> 返す	受信していない場合のレスポンスを返すように設定可
ビット2	<input checked="" type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 1	予約ビット：0 固定で使用
ビット3	<input checked="" type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 1	
ビット4	<input checked="" type="radio"/> 0 <input type="radio"/> 1	
データを受信時の緑LED制御	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	R/W モジュールのLEDの制御
データを受信していない時の、赤LED制御	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	受信時のブザーの鳴動の設定
データ受信時のブザー制御	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
読み出し開始ブロック	0	ReadLoop コマンドの読み出し開始ブロックを入力してください。
読み出しデータ長	4	読み出すデータ長を入力してください。単位はバイトです。
AFIを指定する	<input type="checkbox"/>	指定した AFI 値をもつタグだけ読み出す場合は、チェックを入れて値を入力してください。

OKボタンを押すと、ReadLoop コマンドが実行されます。

このモードは「受信データ」にデータを表示することができます。

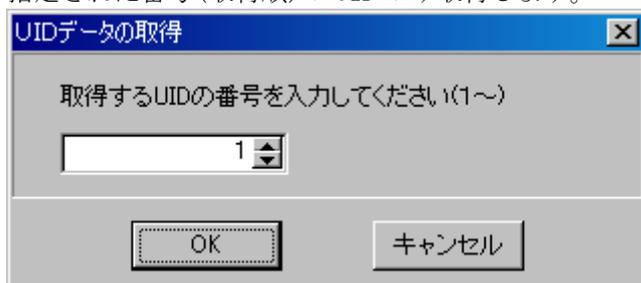
## 7. 14 UIDの数の取得

16slot 対応の Inventory コマンドを実行した後、R/W が取得している UID の数を取得します。



## 7. 15 UIDデータの取得

16slot 対応の Inventory コマンドを実行した後、R/W が取得済の UID データを番号指定で取得します。指定された番号(取得順)の UID のみ取得します。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



受信した枚数以上の番号を指定するとエラーとなります。

## 7. 16 シンプルリードコマンド

コマンドモードにて、シンプルリード動作を1回行うコマンドです。

オートスキャンモードなどで使用している、R/Wが受け取ったタグデータを上位コントローラへ送信するコマンドです。(タグデータの読み込み)

受信データ ログ

```
Simple Read Command:
02 00 52 00 03 57 0D
RX:02 00 64 13 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 54 61 67 2D 69 74 20 48 48 2D 49 03 18 0D
d_command 受信
E0 07 00 00 01 E4 77 0D ← UID
Tag-it HF-I ← タグデータ
```

このコマンドの場合、「受信データ」が表示されます。

No.	データ数	受信データ	UID
1	1	Tag-it HF-I	E0 07 00 00 01 E4 77 0D

## 7. 17 Tag Data

汎用コマンドの「Tag Data」を実行すると、タグの持つデータや情報を読み取り、表示します。

タグのデータ

UID(Hex) E0 07 00 00 01 E4 77 0D  
DSFID(Hex) 5 Block Number 64 Tag Manufacturer Texas Instruments  
AFI(Hex) 3 Block Size 4

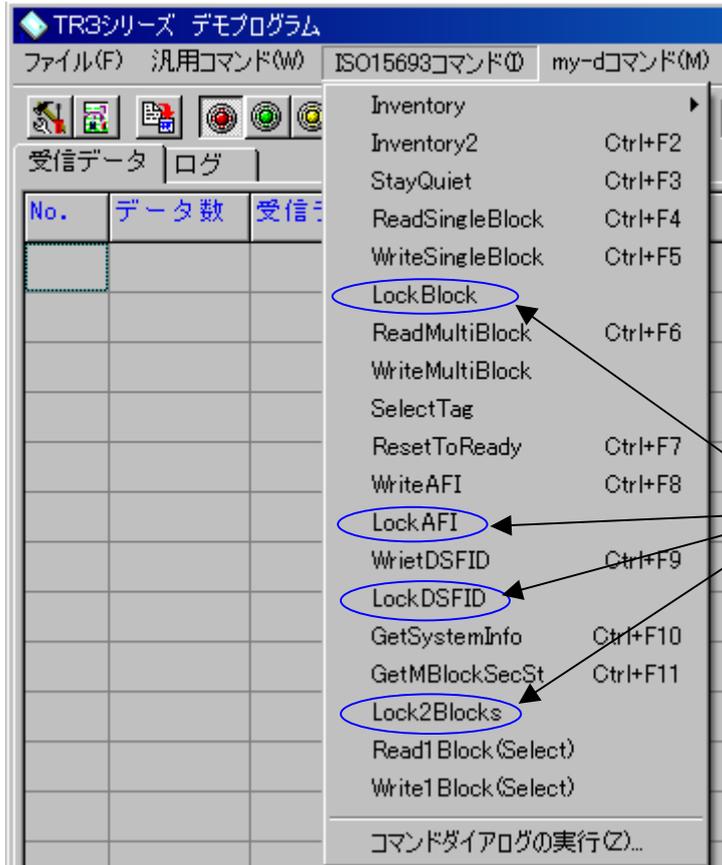
Block Num.	data(MSB --- LSB)	Security data
0	34 33 32 31	00
1	38 37 36 35	00
2	64 63 62 61	00
3	68 67 66 65	00
4	6C 6B 6A 69	00
5	70 6F 6E 6D	00
6	74 73 72 71	00
7	78 77 76 75	00
8	30 30 7A 79	00
9	00 00 00 00	00
10	00 00 00 00	00
11	00 00 00 00	00

OK キャンセル

表示するデータは、

- ・ UID
  - ・ DSFID データ
  - ・ AFI 値
  - ・ タグのもつブロック数
  - ・ 1ブロックサイズ
  - ・ タグ製造元
  - ・ タグデータ
  - ・ ブロックセキュリティステータス
- となっています。

## 8. ISO15693 コマンド



Lock 関係のコマンドはデフォルトではサポートしていません。  
「環境設定」の「ロックブロック機能有効」にチェックを入れて設定してください。

本デモプログラムで使用できる ISO15693 コマンドは、

- Inventory
- Inventory2
- StayQuiet
- ReadSingleBlock
- WriteSingleBlock
- ReadMultiBlock
- WriteMultiBlock
- SelectTag
- ResetToReady
- WriteAFI
- WriteDSFID
- GetSystemInfo
- GetMBlockSecSt

- 
- Read1Block(Select)
  - Write1Block(Select)

(ロックブロック機能を有効にした場合)

- LockBlock
- LockAFI
- LockDSFID
- Lock2Blocks

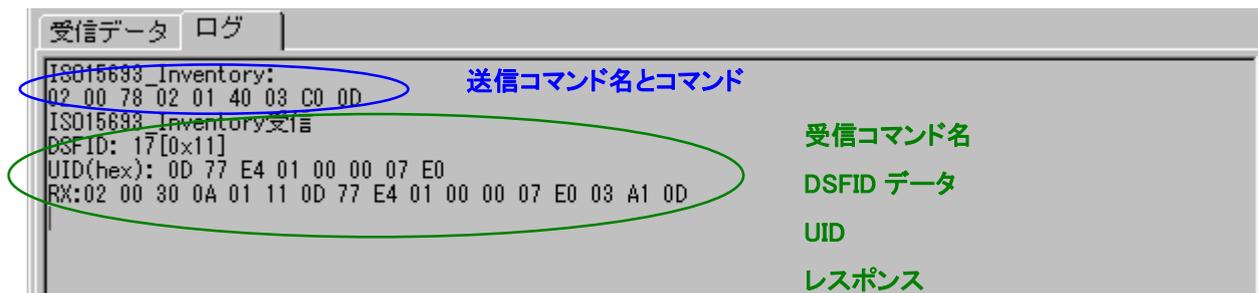
となっています。

## 8. 1 Inventory

Inventory コマンド(1slot : Nb\_slot\_flag = 1)を実行します。

アンテナ有効範囲内にあるタグの UID を取得する場合に使用します。

コマンドを実行すると、「DSFID」と「UID」が表示されます。



```
ISO15693_Inventory:
02 00 78 02 01 40 03 C0 0D
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 17[0x11]
UID(hex): 0D 77 E4 01 00 00 07 E0
RX:02 00 30 0A 01 11 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03 A1 0D
```

送信コマンド名とコマンド

受信コマンド名

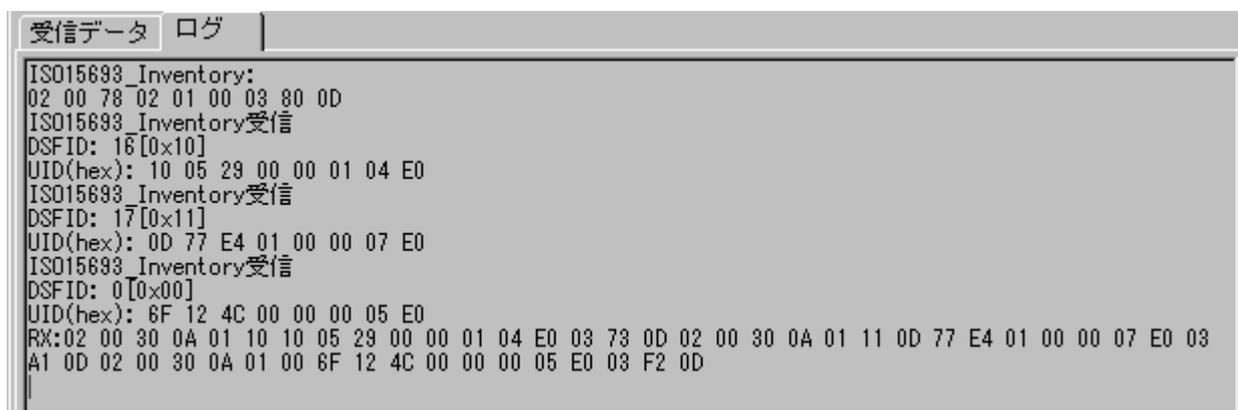
DSFID データ

UID

レスポンス

Inventory コマンド(16slot : Nb\_slot\_flag = 0)を実行した場合、アンテナ範囲内のタグ枚数に応じてレスポンスが返ってきます。

### 3枚のタグを読んだ場合



```
ISO15693_Inventory:
02 00 78 02 01 00 03 80 0D
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 16[0x10]
UID(hex): 10 05 29 00 00 01 04 E0
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 17[0x11]
UID(hex): 0D 77 E4 01 00 00 07 E0
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 0[0x00]
UID(hex): 6F 12 4C 00 00 00 05 E0
RX:02 00 30 0A 01 10 10 05 29 00 00 01 04 E0 03 73 0D 02 00 30 0A 01 11 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03
A1 0D 02 00 30 0A 01 00 6F 12 4C 00 00 00 05 E0 03 F2 0D
```

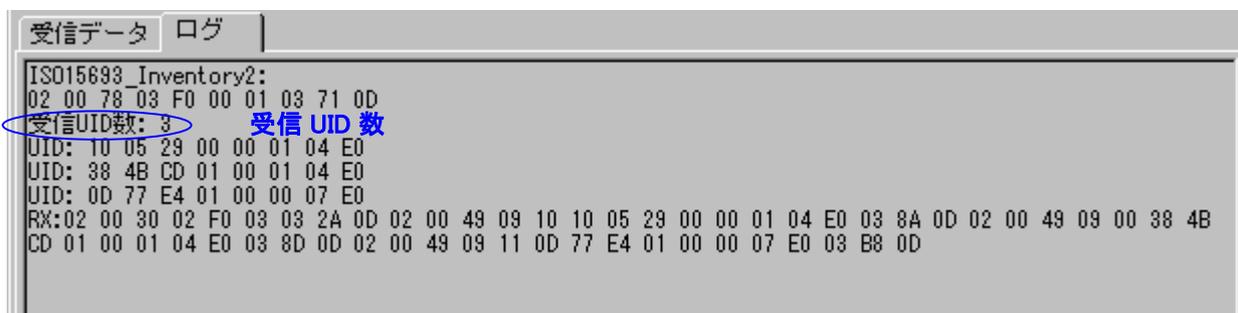
## 8. 2 Inventory2

16slot 対応の Inventory コマンドです。

アンテナ有効範囲内にあるタグの UID 及び UID 取得数を得る場合に使用します。

同時に複数枚のタグの UID と UID 数を取得できます。

### 3枚のタグを読んだ場合



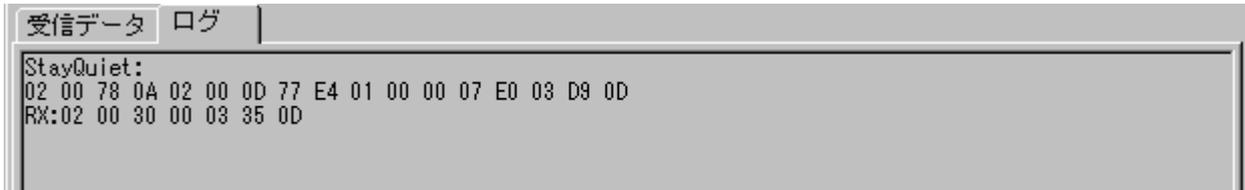
```
ISO15693_Inventory2:
02 00 78 03 F0 00 01 03 71 0D
受信UID数: 3
UID: 10 05 29 00 00 01 04 E0
UID: 38 4B CD 01 00 01 04 E0
UID: 0D 77 E4 01 00 00 07 E0
RX:02 00 30 02 F0 03 03 2A 0D 02 00 49 09 10 10 05 29 00 00 01 04 E0 03 8A 0D 02 00 49 09 00 38 4B
CD 01 00 01 04 E0 03 8D 0D 02 00 49 09 11 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03 B8 0D
```

受信UID数

受信 UID 数を得ることができます。

尚、Inventory(16slot)を実行した後、制御コマンド「UID 数の取得」でも UID 数を得ることができます。

### 8. 3 StayQuiet



タグを「静止状態」へ遷移させます。

この状態にあるタグについては、必ずUID付きでタグを指定しリード/ライトします。

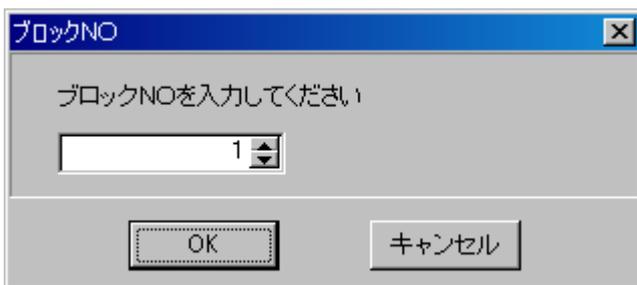
タグがR/Wのフィールド外に出て電源OFFとなるか、又はSelectTag コマンドにより選択状態とするか、ResetToReady コマンドによりレディ状態へ戻すことにより Quiet（静止）状態を解除することが出来ます。

StayQuiet コマンドに対するレスポンスは常にACKとなりますのでご注意ください。

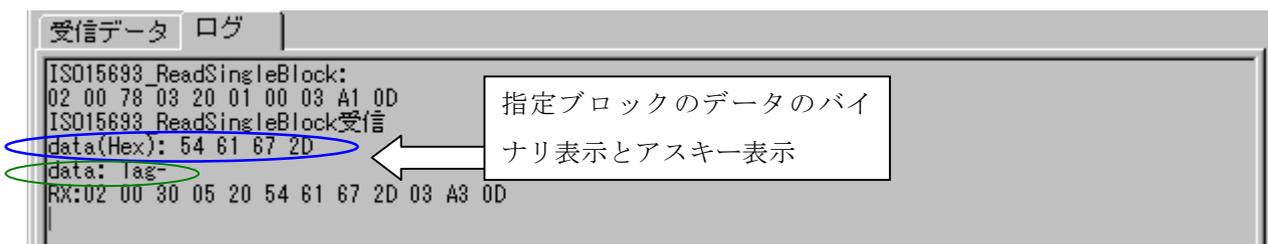
### 8. 4 ReadSingleBlock

タグのメモリ上の指定した1ブロックデータを読み出す場合に使用します。

読むデータのブロックNOを入力してください。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



「環境設定」のRead 関係コマンド欄にあるオプションフラグを1にすると、レスポンスのデータの前にブロックセキュリティステータスが表示されます。

古いMy-d タグは、ReadSingleBlock コマンドをサポートしていません。

古いMy-d タグへのリードは、タグ固有コマンドである「Myd\_Read」または「ReadBytes」を使用してください。

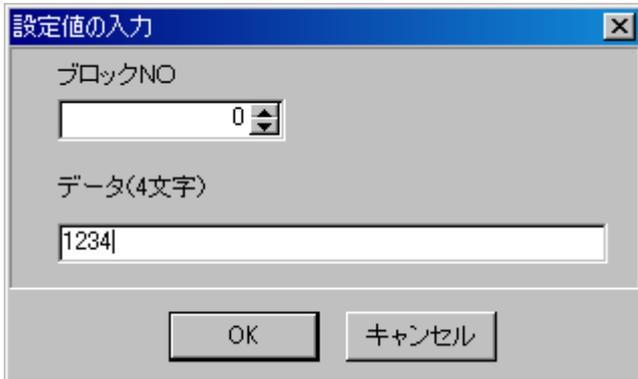
## 8.5 WriteSingleBlock

タグのメモリ上の指定した1ブロックにデータを書き込む場合に使用します。

書き込むタグによってオプションフラグが変わります。環境設定の「動作環境」で変更してください。

タグがTIのTag-it HF-Iの場合、「環境設定」のWrite関係コマンド欄にあるオプションフラグを1とします。その他のタグの場合0とします。

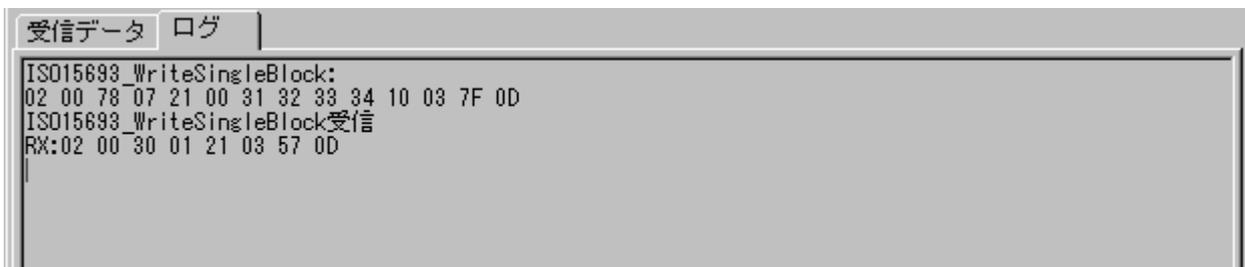
書き込むブロックNo及び書き込むデータを入力してください。(文字列)



バイナリデータを書き込みたい場合は、「設定」→「環境設定」のデバッグで「1BlockWrite 時バイナリデータの書き込みを行う」にチェックを入れてください。ダイアログが変わります。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



正常終了であれば書き込み完了となります。

確認するにはRead系コマンドを実行してください。

また、4文字以上のデータを入力しても5文字目以降は無視して4文字目までが書き込まれます。

古いMy-dタグは、WriteSingleBlockコマンドをサポートしていません。

古いMy-dタグへのライトは、タグ固有コマンドである「Myd\_Write」または「WriteBytes」を使用してください。

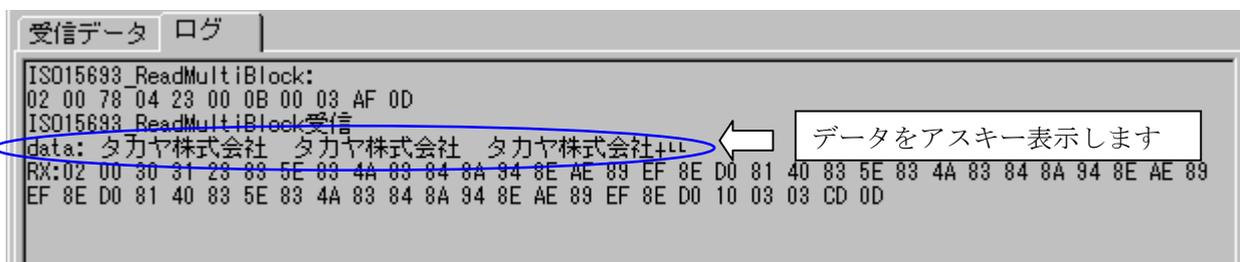
## 8. 6 ReadMultiBlock

タグのメモリ上の連続した複数ブロックを一度に読み出す場合に使用します。

読み出し開始ブロック及びブロック数を入力してください。



OK ボタンでコマンド実行となります。



レスポンスに、指定したデータが返ってきます。

「環境設定」の Read 関係コマンド欄にあるオプションフラグを 1 にすると、レスポンスのデータの前にブロックセキュリティステータスが表示されます。

読み出し可能ブロックはタグ及び RW モジュールによって異なるのでご注意ください。

参考)

モジュール

- TR3-C101 : 最大 5 ブロック
- TR3-C201 : 最大 63 ブロック

最大ブロックを超えた読み出しはエラーとなります。

古い My-d タグは、ReadSingleBlock コマンドをサポートしていません。

古い My-d タグへのリードは、タグ固有コマンドである「Myd\_Read」または「ReadBytes」を使用してください。

## 8. 7 WriteMultiBlock

タグのメモリ上のブロックを複数ブロック書き込みを行う場合に使用します。

但し、Tag-it HF-I, I CODE SLI, My-d は、このコマンドには対応していません。

## 8. 8 SelectTag

SelectTag コマンドを実行するにはUID の指定が必須となります。

まず選択状態にしたいタグに対して Inventory コマンドを実行してから SelectTag コマンドを送ってください。

```
受信データ ログ
ISO15693_Inventory:
02 00 78 02 01 40 03 C0 0D
RX:02 00 30 0A 01 00 38 4B CD 01 00 01 04 E0
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 0[0x00]
UID(hex): 38 4B CD 01 00 01 04 E0
RX:03 76 0D
ISO15693_SelectTag:
02 00 78 0A 25 00 38 4B CD 01 00 01 04 E0 03 E2 0D
ISO15693_SelectTag受信
RX:02 00 30 01 25 03 5B 0D
```

初めに Inventory コマンドで UID を取得する

コマンド中に自身の UID を指定

正常終了であれば、タグは「選択状態」へ遷移します。

SelectコマンドによりSelect状態となったタグに対し、オプションフラグ内のSelect\_flag=1として各種コマンドを送信します。

複数枚のタグがアンテナ上にある場合、UIDを指定する事なくリード/ライトする事ができます。

## 8. 9 ResetToReady

ResetToReady コマンドを実行した場合のログを下部に示します。

```
受信データ ログ
ISO15693_ResetToReady:
02 00 78 02 26 00 03 A5 0D
ISO15693_ResetToReady受信
RX:02 00 30 01 26 03 5C 0D
```

正常終了であれば、タグは「レディ状態」へ遷移します。

この状態にあるタグについては、UID無しでもUID付でもどちらでもリード/ライトが可能です。

## 8. 10 WriteAFI

タグのメモリ上の AFI への書き込みを行う場合に使用します。

書き込むタグによってオプションフラグが変わります。環境設定の「動作環境」で変更してください。

タグが TI の Tag-it HF-I の場合、「環境設定」の Write 関係コマンド欄にあるオプションフラグを 1 とします。

その他のタグの場合 0 とします。

書き込む AFI 値を入力してください。



OK ボタンでコマンド実行となります。



正常終了であれば A F I 値書き込み完了となります。

## 8. 11 WriteDSFID

タグのメモリ上の DSFID への書き込みを行う場合に使用します。

書き込むタグによってオプションフラグが変わります。環境設定の「動作環境」で変更してください。

タグが TI の Tag-it HF-I の場合、「環境設定」の Write 関係コマンド欄にあるオプションフラグを 1 とします。

その他のタグの場合 0 とします。

書き込む DSFID 値を入力してください



OK ボタンでコマンド実行となります。

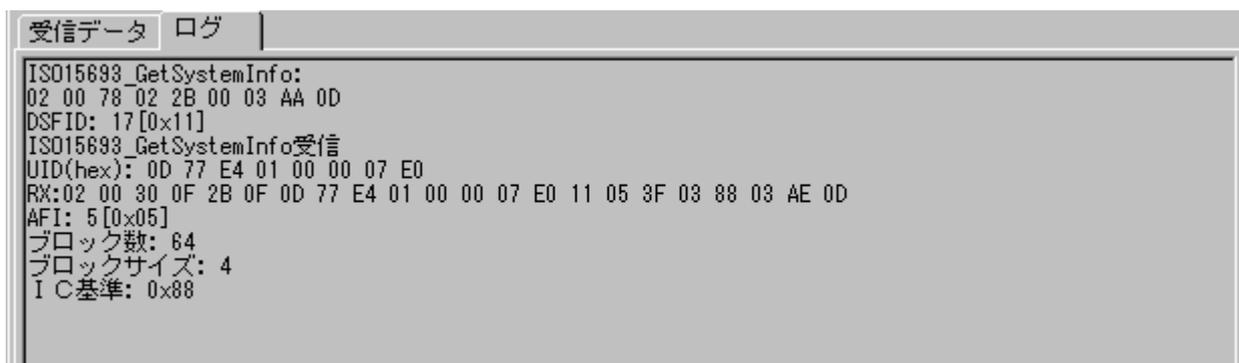


正常終了であれば、DSFID 値書き込み完了となります。

## 8. 12 GetSystemInfo

タグのメモリ上のシステム情報の取得を行う場合に使用します。

取得情報は、UID, DSFID, AFI、の他に下記の情報フラグとタグのメモリサイズ情報です。



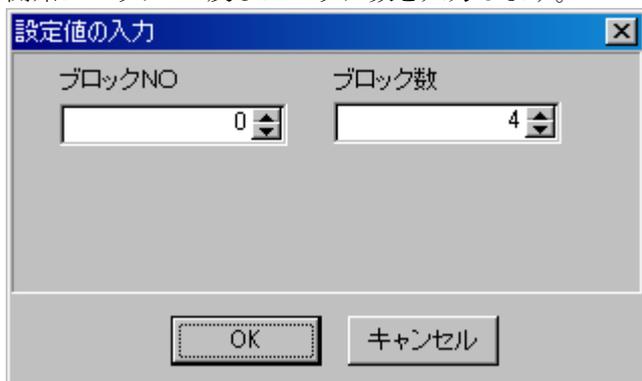
- UID
- DSFID
- AFI
- VICC メモリサイズがあれば VICC メモリサイズ
- IC 基準情報があれば IC 基準情報

これらのデータを取得することができます。

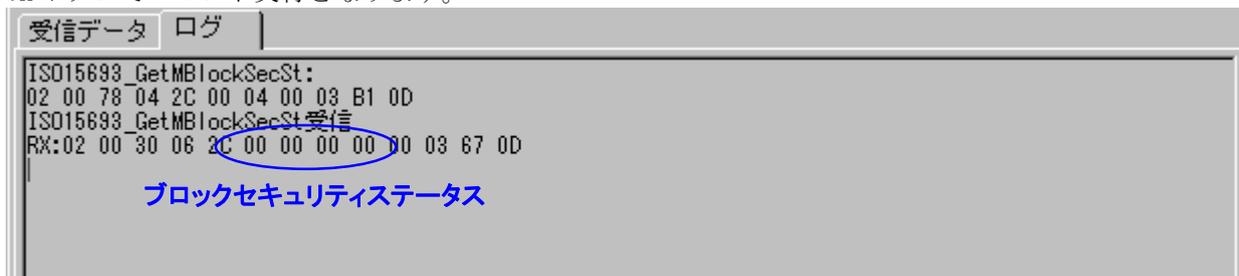
## 8. 13 GetMBlockSecSt

タグのメモリ上の複数のブロックセキュリティステータスの取得を行う場合に使用します。

開始ブロック No 及びブロック数を入力します。



OK ボタンでコマンド実行となります。



指定したブロック数に応じて、ステータスが 00h または 01h で返されます。

00h : UNLOCK

01h : LOCK

## 8. 14 Read1Block(Select)

Read1Block(Select) コマンドは、「選択状態」でのみ実行可能にした ReadSingleBlock コマンドです。

```
受信データ ログ
ISO15693_Inventory:
02 00 78 02 01 40 03 C0 0D
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 17[0x11]
UID(hex): 0D 77 E4 01 00 00 07 E0
RX:02 00 30 0A 01 11 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03 A1 0D
Inventory コマンド

ISO15693_SelectTag:
02 00 78 0A 25 00 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03 FC 0D
ISO15693_SelectTag受信
RX:02 00 30 01 25 03 5B 0D
SelectTag コマンド

ISO15693_ReadSingleBlock:
02 00 78 03 20 00 04 03 A4 0D
ISO15693_ReadSingleBlock受信
data(Hex): 31 32 33 34
RX:02 00 30 05 20 31 32 33 34 03 24 0D
Read1Block コマンド
```

タグに SelectTag コマンドを実行し、「選択状態」に遷移させた後、Read1Block(Select) コマンドを実行してください。

## 8. 15 Write1Block(Select)

Write1Block(Select) コマンドは、「選択状態」でのみ実行可能にした WriteSingleBlock コマンドです。

```
受信データ ログ
ISO15693_Inventory:
02 00 78 02 01 40 03 C0 0D
ISO15693_Inventory受信
DSFID: 0[0x00]
UID(hex): 0D 77 E4 01 00 00 07 E0
RX:02 00 30 0A 01 00 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03 30 0D
Inventory コマンド

ISO15693_SelectTag:
02 00 78 0A 25 00 0D 77 E4 01 00 00 07 E0 03 FC 0D
ISO15693_SelectTag受信
RX:02 00 30 01 25 03 5B 0D
SelectTag コマンド

ISO15693_WriteSingleBlock:
02 00 78 07 21 00 31 32 33 34 14 03 83 0D
ISO15693_WriteSingleBlock受信
RX:02 00 30 01 21 03 57 0D
Write1Block コマンド
```

タグに SelectTag コマンドを実行し、「選択状態」に遷移させた後、Write1Block(Select) コマンドを実行してください。

## 8. 16 LockBlock、LockAFI、LockDSFID、Lock2Blocks

それぞれ、タグのメモリ上の「指定ブロック」「AFI」「DSFID」「連続した2ブロック」をロックし、リードオンリーとする場合に使用します。一度ロックすると解除はできませんのでご注意ください。

タグが TI の Tag-it HF-I の場合、オプションフラグ内の Option\_flag を 1 とします。

その他のタグの場合 0 とします。

尚、LockBlock、Lock2Block に関しては実行時ブロック指定のためダイアログが出ますが、

LockAFI、LockDSFID は選択した瞬間ロックしてしまいますのでご注意ください。

## 8. 17 コマンドダイアログの実行

コマンドの実行

オプション

UIDの指定

select\_flag  0  1

address\_flag  0  1

option\_flag  0  1

AFI\_flag  0  1

Nb\_slots\_flag  0  1

未使用  0  1

コマンド

連続実行する

OK キャンセル

デバッグ用のダイアログです。

ISO15693 コマンドを実行することができます。

「連続実行する」にチェックを入れることで、連続でデータのやり取りが可能となっています。

各コマンドに対して、アンテナ読取距離や、動作確認を調べるのに使用できます。

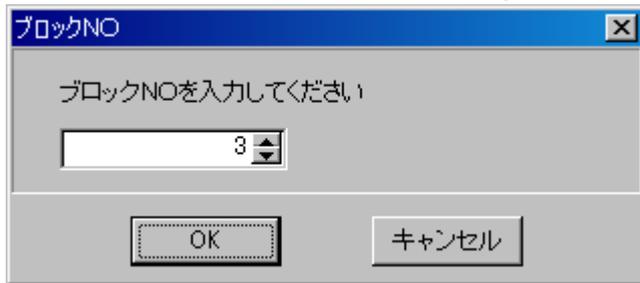
ログが表示されます

## 9. my-dコマンド

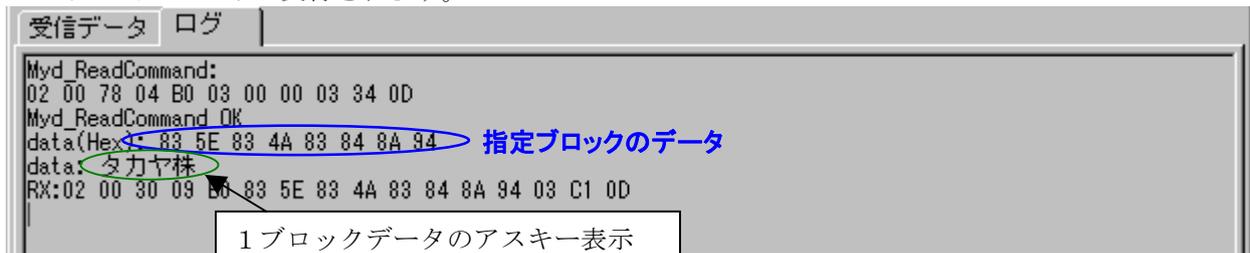
my-d コマンドはMy-d タグ固有のコマンドであり、Tag-it HF-I、I CODE SLI では使用できません。

### 9. 1 Read

読み出すブロック No を入力してください。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



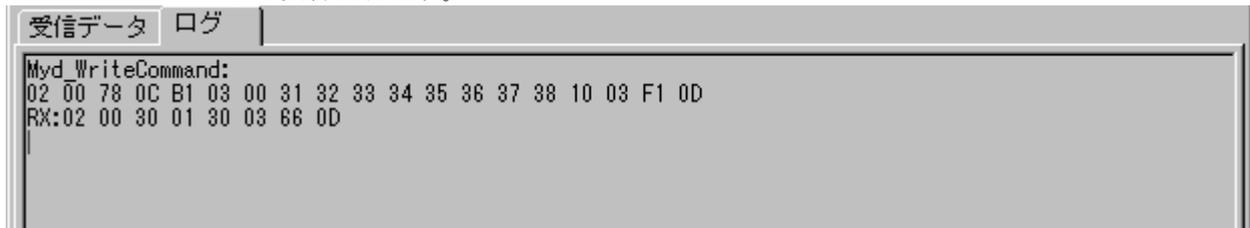
指定した1ブロック分（8バイト）のデータが表示されます。

### 9. 2 Write

書き込むブロック No 及び書き込むデータを入力してください。



OK ボタンでコマンドが実行されます。



正常終了で書き込み完了です。

My-d タグの0~2 ブロックは保護がかかっているので書き込みは3ブロックから有効となります。

8文字以上のデータを入力しても、9文字目以降は無視して8文字目までが書き込まれます。

## 10. 設定

### 10.1 R/Wの動作モードの設定

「6.3 動作モードの設定」を参照ください。

### 10.2 アンテナ切替の設定

下記、ダイアログの「アンテナ切替の設定」よりアンテナ切替に関する設定を行います。

TR3-L002C : ロングレンジタイプの2チャンネルアンテナ出力用R/Wのアンテナ切替設定メニューです

切替基板使用 : アンテナ切替基板使用時のR/Wのアンテナ切替設定メニューです。



設定内容詳細は、付属CD-ROM収録の「デモソフトによるアンテナ切り替えの設定.pdf」を参照ください。

各種R/Wにより設定内容が異なりますのでご注意ください。

### 10.3 アンテナの選択



外部アンテナの自動切替え機能が無効の場合、上位側からアンテナを指定します。

### 10.4 I/Oポートの設定

TR3-C201, C101, L101等の、I/F部のI/Oポートを汎用のI/Oポートとして設定します。

詳細は、付属CD-ROM収録の技術資料「TR3 I/Oポートの設定内容について」を参照ください。

## 10.5 EASモードの設定

設定の「EASの設定」よりタグへAFIの値を書き込みます。

タグにAFI値を書き込みます。書込まれる値は、  
「EASモードの設定」で設定済みの値が反映されます。



ここに入力されている値がR/Wに書き込まれます。

「EAS の設定」の ON をクリックすると、この値をタグに書き込みます。

「EAS の設定」の OFF をクリックすると、この値をタグに書き込みます。

設定ボタンを押すと、R/Wに、EASモードで使用するAFI値が設定された後、EASモードになります。

EASモードでは、R/Wと同じAFI値をもつタグを読み取ります。

読み取らせたいタグにAFI値を設定してください。

レスポンスは”OK”を返し、「受信データ」で確認することができます。

## 10.6 R/Wのパラメータ設定

R/Wの保持する設定を変更します。OKボタンを押すと、EEPROMに書き込み、リスタートします。尚、以下の設定がR/Wのデフォルト設定となります。

(ただし、ゲートアンテナは、アンチコリジョン処理の設定=高速処理デフォルトとなります。)

R/Wのパラメータ設定

R/WのID(RS485使用時以外は0を設定) [0-255]	0
リトライ回数(2で1回リトライを行う)	1
ブロックサイズ(Tag-it HFI I-code SLIの場合は4)	4
R/WのAFI値の設定値(16進[0-255])	0
RDLLOOPモード: 読み出しスタートブロック(0-255)	1
RDLLOOPモード: 読み出しデータ長(0-255)	4
アンチコリジョン処理の設定	<input checked="" type="radio"/> 通常処理 <input type="radio"/> 高速処理
イベントリコマンド時のAFI値	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する
イベントリ時のトリガー入力	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
ブザー種別の設定(ハード設定)	<input checked="" type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> ブザー音大
IOPORT3の機能	<input checked="" type="radio"/> RS485制御信号 <input type="radio"/> エラー出力
ノーリードコマンド	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する
シンプルライトコマンド時UIDを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

タグの選択を行う

TI,my-d,フィリップス  富士通

OK キャンセル

Tag-it HF-I, I CODE SLI, My-d などのタグを使用するとき

富士通のタグを使用するとき

### 10.6.1 RS485 IF用、R/W ID値設定について

RS485使用時のIDを設定します。

付属CD-ROM収録の技術資料「RS485での複数台の使用方法について」を参照ください。

### 10.6.2 リトライ回数の設定について

R/Wからタグへリードやライトする場合、設定したリトライ回数を上限とし、OKになるまでR/W側で処理を繰り返す機能です。

用途は、使用環境が悪くノイズ発生源の近くなどで使用する場合、R/Wとタグ間の交信に妨害を受けてR/Wがエラーを返すような時に有効な機能です。

尚、設定値1の場合は、リトライなしとなります。

### 10.6.3 ブロックサイズについて

PCがR/Wから受け取るデータブロックのサイズを設定します。

タグのブロックサイズ以外の値を入力してデータのやり取りをするとエラーとなりますので、タグの仕様に従った値を入力するようにしてください。(尚、この設定はmy-dコマンドには影響しません。)

### 10.6.4 R/WのAFI値の設定

R/WのAFI値を設定できます。これは「EASモードの設定」と同じ動作となりますが、OKボタンを押してもEASモードにはなりません。

### 10.6.5 RDLOOPモード読み出しブロック設定

RDLOOPモードで使用する読み出し開始ブロックを設定します。

### 10.6.6 RDLOOPモード読み出しデータ長

RDLOOPモードで読み出すデータの長さを設定します。

開始位置はブロックNO指定ですが、データ長はバイト単位です。

### 10.6.7 アンチコリジョンの設定

“高速処理”とした場合、アンチコリジョンを、高速化したアルゴリズムで処理します。

注) 対応ROMバージョンは、1.21以降となります。

### 10.6.8 インベントリコマンド時のAFI値

R/Wに設定されたAFI値を利用して、読み取るタグを指定します。

“使用する”とした場合、オートスキャンモード、連続インベントリモードなどの読み取りモードでAFI値を使用した処理を行います。

### 10.6.9 インベントリ時のトリガー入力について

R/Wは、連続インベントリモードで動作させている場合、トリガ信号(トリガーSW)の入力(SW ON)のある間、上位側へUID送信をすることができます。この機能の無効/有効の設定を行います。

### 10.6.10 ブザー種別の設定(ハード設定)

ブザーの種別を設定します。R/Wで使用しているブザーのタイプに合わせて設定します。

### 10.6.11 IOPORT3の機能

IOPORT3をポートとして使用しない場合に、RS485の制御用か、オートスキャンモードなどの読み取り時のエラーを示す信号のどちらの設定で使用するかを選択します。

#### 10.6.12 ノーリードコマンド

データの読取を確認します。

連続インベントリモード、トリガーモード、ポーリングモードを実行中、タグを読めない場合に R/Wは「BR」というデータを返します。

#### 10.6.13 シンプルライトコマンド時UIDを使用

シンプルライトコマンド（タグデータ書き込み）時にUIDを指定します。

これは、複数のタグに連続でデータを書き込んでいく場合、対象でないタグに書き込みが行われるのを防ぐために使用します。

実行時、ログには変化がありませんが、R/WはUIDを使用したデータの読み取りを行っています。

#### 10.6.14 タグの選択

使用するタグの種類を選択します。

TI、my-d、フィリップスを選択した場合、

R/WのID	: 0
リトライ回数	: 3
ブロックサイズ	: 4

が初期値として自動でセットされます。

富士通を選択した場合、

R/WのID	: 0
リトライ回数	: 10
ブロックサイズ	: 8

が初期値として自動でセットされます。

## 10.7 環境設定

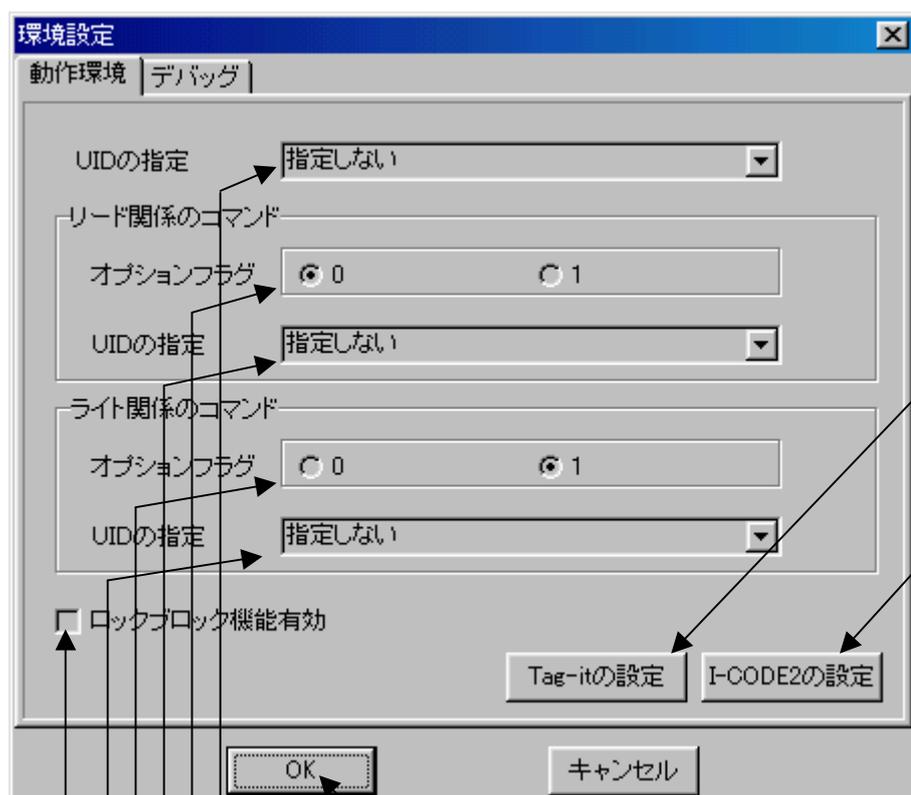
### 10.7.1 動作環境ダイアログの説明

メイン画面の設定から「環境設定」メニューを選択すると以下の環境設定のダイアログが開きます。

ここでは、R/Wからタグへ送信するコマンド（ISO15693）動作の環境設定を行い、UID指定と共に読み込みや書き込みを行うかの選択を行います。

サポートタグの選択をするには、ダイアログメニュー内の「Tag-itの設定」「I-CODE2の設定」のボタンを押します。

- ・「Tag-itの設定」のボタンを押す場合：Tag-it HF-I に対応した動作になります。
- ・「I-CODE2の設定」のボタンを押す場合：I-CODE SLI My-d に対応した動作になります。



指定内容で、R/Wに設定します。

リードやライトの以外のコマンドにUID指定をする場合に設定します。

リードコマンドのオプションフラグを設定します。

リードコマンドにUID指定をする場合に設定します。

ライトコマンドのオプションフラグを設定します。

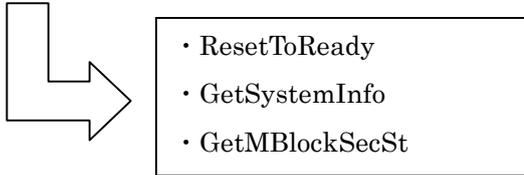
ライトコマンドにUID指定をする場合に設定します。

ここをチェックするとメイン画面の「デバッグ (ISO15693)」メニューで使えるコマンドにロック機能を持つコマンドが有効になります。

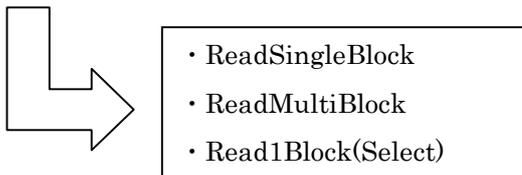
## 10.7.2 UID指定

コマンド実行時、タグのUIDを指定することで、指定されたタグだけが応答を返します。  
UIDの指定は、Inventory コマンドでUIDを取得してから行ってください。

- ・リードやライト以外のコマンドにUIDを指定する設定にした場合  
適用されるコマンド

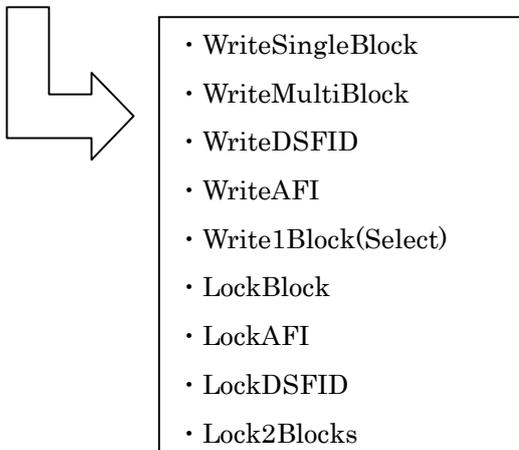


- ・リードコマンドにUIDを指定する設定にした場合  
適用されるコマンド



但し、Read1Block(Select) コマンドは、オプションフラグの `select_flag` が 1 になっておりUIDの指定をするとエラーとなってしまうので、実際は使用できません。

- ・ライトコマンドにUIDを指定する設定にした場合  
適用されるコマンド



但し、Write1Block(Select) コマンドは、オプションフラグの `select_flag` が 1 になっておりUIDの指定を  
するとエラーとなってしまうので、実際は使用できません。

## 10.8 環境設定のデバッグ

デモプログラムの設定を行います。

尚、以下の設定がデフォルトの設定となります。



### ・表示データの色を変える

「受信データ」に表示されるデータの色を設定します。

チェックがない場合、すべて青色となります。

チェックがある場合、最後に読み込んだデータは赤色表示され、それ以外は黒色表示となります。

### ・インベントリ2時、UIDデータも受信する

チェックがない場合、Inventory2 実行で「受信UID数」だけ表示します。

### ・入出フォーマットを使用する

次項 10.9 を参照ください。

### ・1BlockWrite 時のバイナリデータの書き込みを行う

書き込み時、デフォルトでは文字列を書き込みますが、

チェックがある場合、バイナリデータ書き込みとなります。

### ・R/WのID

RS485 使用時に設定するR/WのIDです。

ここで指定したIDのR/Wに対し、制御を行います。

### ・ブロックサイズ

R/Wがタグから受信するブロックサイズの設定です。

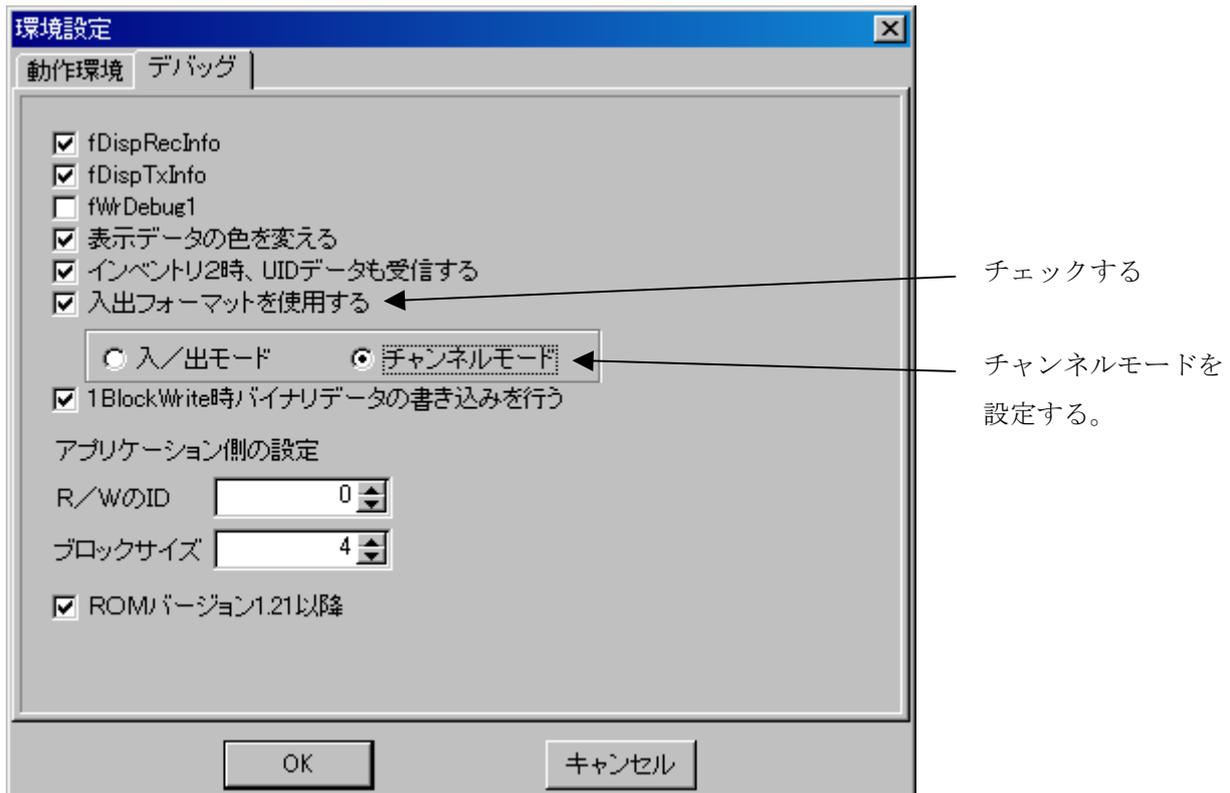
タグのブロックサイズ以外の値を入力してデータのやり取りをしようとするとエラーとなる可能性がありますので、タグの仕様に従った値を入力するようにしてください。(尚、my-dコマンドには影響しません。)

### ・ROMバージョン1.21

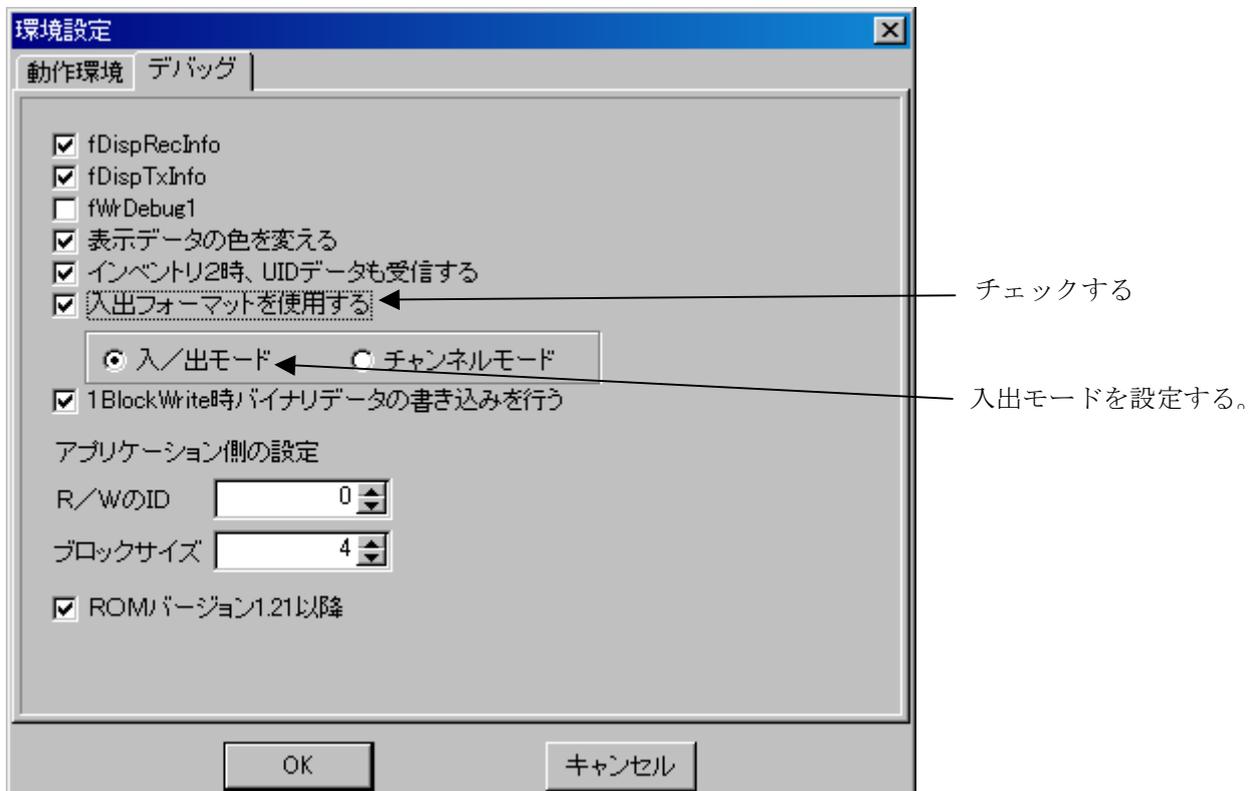
ROMバージョン1.21以降の場合はこちらをチェックしてください。

## 10.9 アンテナ切替を行う場合の表示画面設定について

### 10.9.1 「受信データ」表示画面上にR/Wから受信したアンテナ番号を表示する場合



### 10.9.2 「受信データ」表示画面上にゲートシステムから受信した入出方向を表示する場合



## 1 1. シリアル/USB接続専用設定

### 1 1. 1 COMポートの選択

R/Wを接続するポートに合わせて設定します。(PC側の設定)



### 1 1. 2 通信パラメータ

R S 2 3 2 Cの通信モードの設定

以下の設定にてご使用ください。



尚、「ビット/秒」の設定は、R/W側の設定に合わせてください。

(R/W側のデフォルト：19200)

### 1 1. 3 通信スピードの設定

R/W の通信速度を設定します。

- 9600bps
- 19.2kbps
- 38.4kbps

から選択してください。

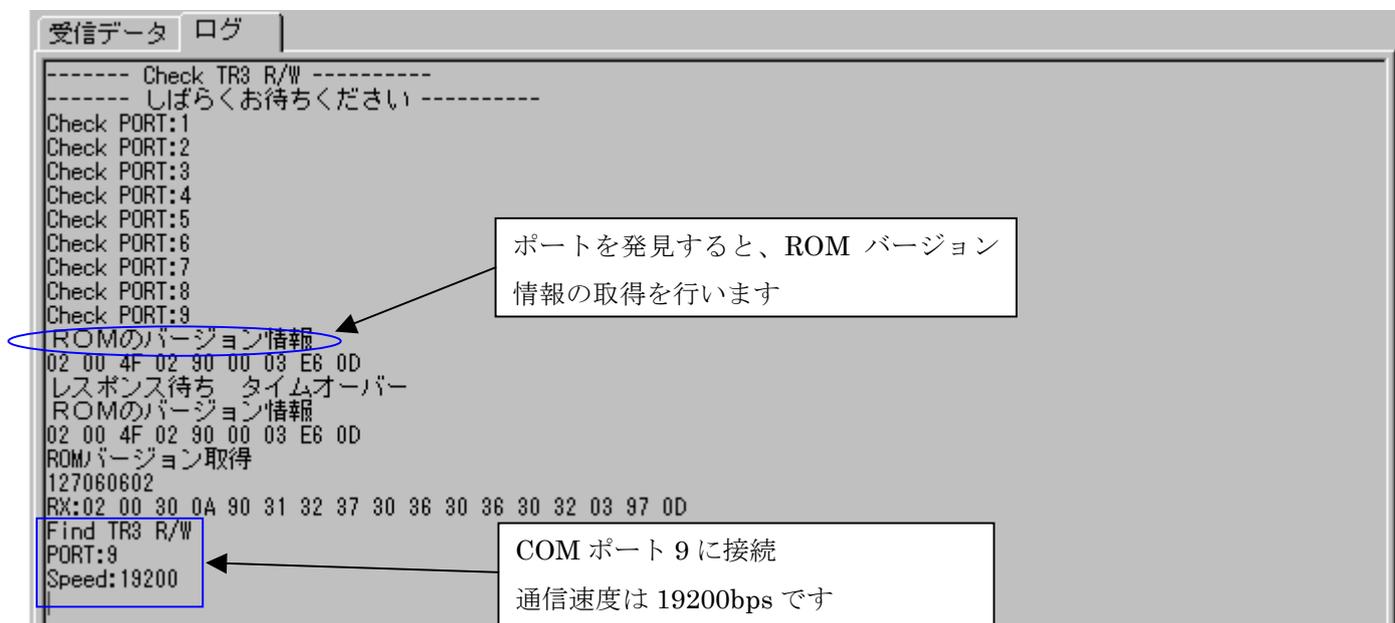
ポートの通信速度も自動的に変更する仕様となっています。

尚、上記設定はR/Wと正しく通信できている状態で行ってください。

(通信できていない状態を修復するものではありません。)

注) 対応ROMバージョンは、1. 2 1以降となります。

### 1 1. 4 ポートチェック

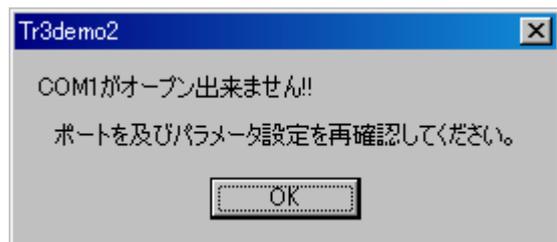


COM ポート 1～10 までの範囲で、接続可能なポートを自動で検出します。

正常に接続できた場合、そのポートで処理を終了します。

「Find」と表示されると、そのポートで接続された状態となります。

ポートが開けない場合は下部のようなダイアログが出ますので、OKボタンで次へ進んでください。

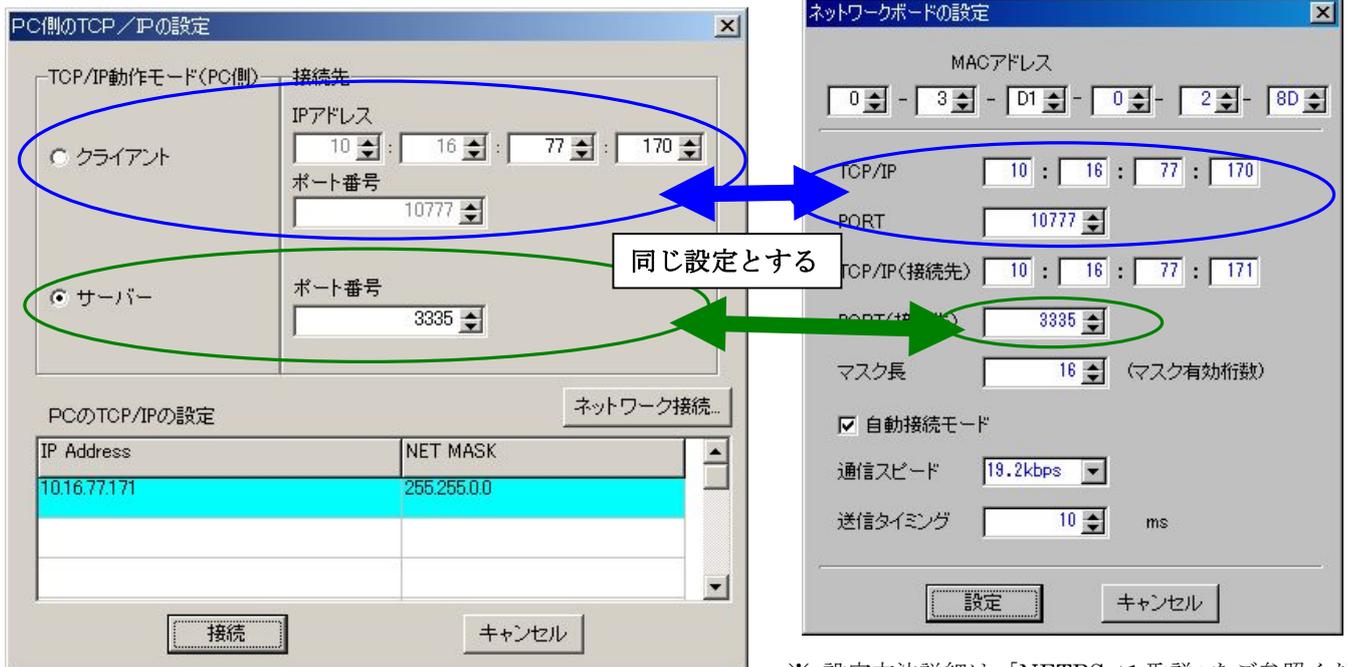


## 1 2. LAN接続専用設定

### 1 2. 1 LAN接続の設定

ここでは、TCP/IPの再接続が可能です。

NETBset1.exe 設定画面



※ 設定方法詳細は、「NETBSet1 取説」をご参照ください。

「接続」ボタンで接続を開始します。



#### クライアントモード

PC(クライアント) ⇒ R/W(サーバ)  
R/WのIPアドレスとポート番号を入力してください。

#### サーバモード(デフォルト設定)

R/W(クライアント) ⇒ PC(サーバ)  
PCのポート番号を入力してください。

上のダイアログが消え、

- ・クライアントモードを選択した場合



- ・サーバモードを選択した場合



と表示されれば接続完了です。

※ TCP/IPの接続は状況によって左右され、時間がかかることもあります。

## 1 2 . 2 PINGの実行

IP アドレスの範囲を指定し、接続状態を確認することができます。

上位 3 バイトは固定で、下位 1 バイトの範囲を指定します。

「Search」を実行すると、指定した範囲の接続状況を調べることができます。

検索中...

10 : 16 : 77 : 175  
255

Wait Time 200

Default1(Board)  
Default2(Reset)

No Find : 10.16.77.160  
No Find : 10.16.77.161  
No Find : 10.16.77.162  
No Find : 10.16.77.163  
No Find : 10.16.77.164  
No Find : 10.16.77.165  
No Find : 10.16.77.166  
No Find : 10.16.77.167  
No Find : 10.16.77.168  
No Find : 10.16.77.169  
Find : 10.16.77.170  
Find : 10.16.77.171  
No Find : 10.16.77.172  
No Find : 10.16.77.173  
No Find : 10.16.77.174

Search キャンセル

アドレス入力欄を  
10.16.77.□にセットします。

アドレス入力欄を  
192.168.0.□にセットします。

探索する間隔を設定します。  
(単位 : ms)  
設置環境により最適な値に設定してください。  
(物理的な配線が長い場合、  
時間を長くするなど。)

接続を探索します

このダイアログを閉じます

Find と表示された IP アドレスが、物理的に接続されています。

### 1 3. TR3Gate1 用設定

ゲートオプション機能の設定を行う場合ご使用ください。

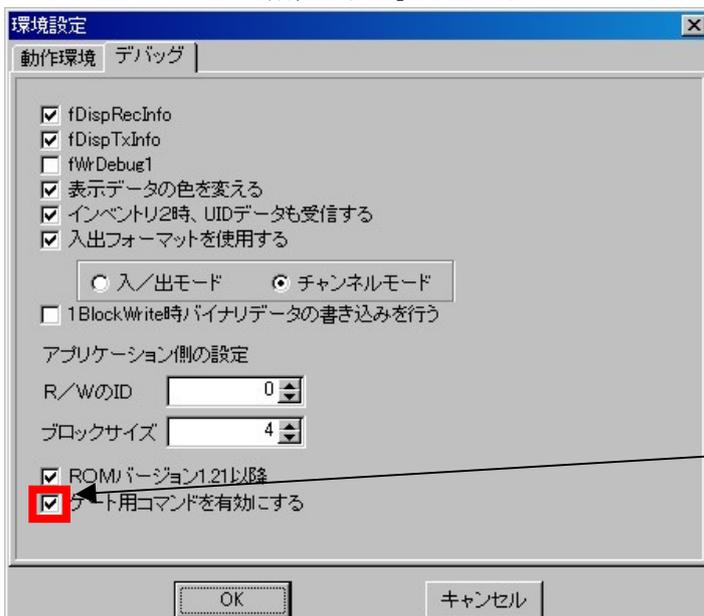
但し、ゲートオプションのハード実装状態により使用できる機能が異なりますのでご注意ください。

設定内容の詳細は、技術資料（付属 CD-ROM 収録の「G001A 解説書、G002 解説書又は G003 プロトコル説明書」）を参照ください。

下記メニューは、G001A、G002、及び G003 の機種で共通に使用できます。



※ メニューに「ゲート用コマンド」がない場合は、設定の「環境設定」ダイアログを開き、「ゲート用コマンドを有効にする」にチェックを入れてください。



チェックを入れる

下記メニューは、G003 の機種でのみ使用できます。



### 1.3.1 動作モード

現在のゲートオプション機能の動作状態を表示します。

通常、電源 ON 時、IO 基板の SW (DIPSW) の状態を読み込み、表示します。設定を変更した場合は、反映されます。電源 OFF/ON 後は、IO 基板の SW (DIPSW) を再度読み込むため、元に戻ります。

①赤外線センサー実装時に有効で、人の入出判断をする時に使用します。

②赤外線センサー実装時に有効で、人の通過方向の判定を逆にする時に使用します。

③赤外線センサー実装時に有効で、人がタグを持たずに通過する場合のレスポンス(エラー)を返す時に使用します。

④人(焦電)センサー実装時に有効で、不在時の不要電波を OFF する時に使用します  
※G003 は未対応

⑤「EEPROM 有効」選択時、R/W側の設定内容を反映します。  
「EAS モード」選択時、タグ読み取りの際に EAS 機能を使用します。

⑥「テストモード」有効時、タグ読み取りの際にランプ点灯のみとなり、ブザー鳴動は OFF 状態となります。

設定内容が設定されます。

#### SW の説明

	SW 番号	説明
①	1	入出センサーモード OFF : 未使用    ON : 入のみの判定    OFF : 出のみの判定    ON : 入出判定
	2	OFF :            OFF :            ON :            ON :
②	3	入出センサー通過方向 OFF : 順方向    ON : 逆方向
③	4	入出センサーエラー時レスポンス OFF : 出力しない    ON : 出力する
④	5	人センサー OFF : 無効            ON : 有効
⑤	6	EAS モード OFF : 無効            ON : EAS モード
⑥	7	ランプテストモード OFF : 無効            ON : テストモード
—	8	未使用

### 1.3.2 EEPROMデータ

ゲートのオプション機能の動作設定を変更する場合にご使用ください。

ゲート用メモリースイッチの設定

メモリースイッチ1 | メモリースイッチ2 | メモリースイッチ3 | メモリースイッチ4 | メモリースイッチ5 | メモリースイッチ6

入時のブザー音  
 ビー ~     ビッ、ビッ、...     ビロ、ロ、...     ツートツー、...

入時のブザー音量  
 OFF     小     中     大

出時のブザー音  
 ビー ~     ビッ、ビッ、...     ビロ、ロ、...     ツートツー、...

出時のブザー音量  
 OFF     小     中     大

エラー時のブザー音  
 ビー ~     ビッ、ビッ、...     ビロ、ロ、...     ツートツー、...

エラー時のブザー音量  
 OFF     小     中     大

音の選択  
 ブザー     音声

設定(S)    キャンセル(C)

入出判断の「入」時  
ブザー音の変更  
※入出機能なしの場合のデフォルト値

入出判断の「出」時  
ブザー音の変更  
※入出機能使用時のみ有効

入出判断の「エラー」  
時ブザー音の変更  
※入出/通過機能使用時のみ有効

音の選択  
ブザー or  
音声合成(オプション)

ゲート用メモリースイッチの設定

メモリースイッチ1 | メモリースイッチ2 | メモリースイッチ3 | メモリースイッチ4 | メモリースイッチ5 | メモリースイッチ6

ブザー & ランプの連続  
 OFF     ON

ブザー & ランプ時間のベースタイム  
 0.25 Sec     0.5 Sec     1.0 Sec     10.0 Sec

ブザー & ランプ時間    ベースタイム ×  (秒)

立上時DIPSWの有効指定  
 OFF : DIPSW     ON : EEPROM

パネルLED使用の入出センサーテストモード  
 OFF : パネルLED     ON : センサー入力

入側のランプ  
 消灯     点滅     点灯     フラッシング

出側のランプ  
 消灯     点滅     点灯     フラッシング

設定(S)    キャンセル(C)

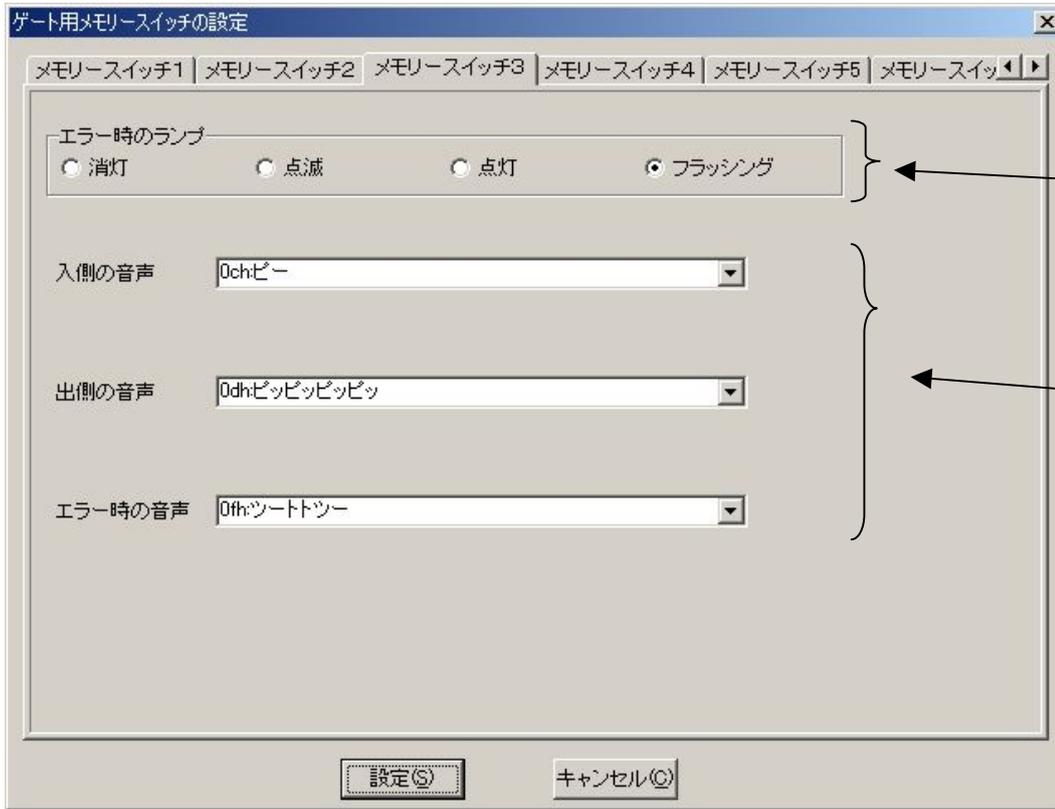
タグ読取時のブザーと  
ランプの点灯時間  
「OFF」: 設定内容にて動作  
「ON」: 連続動作

立上時動作モードの有  
効な参照先選択  
(メモリースイッチ6 参照)

「OFF」: 状態表示モード  
「ON」: 赤外線センサー  
の反応確認

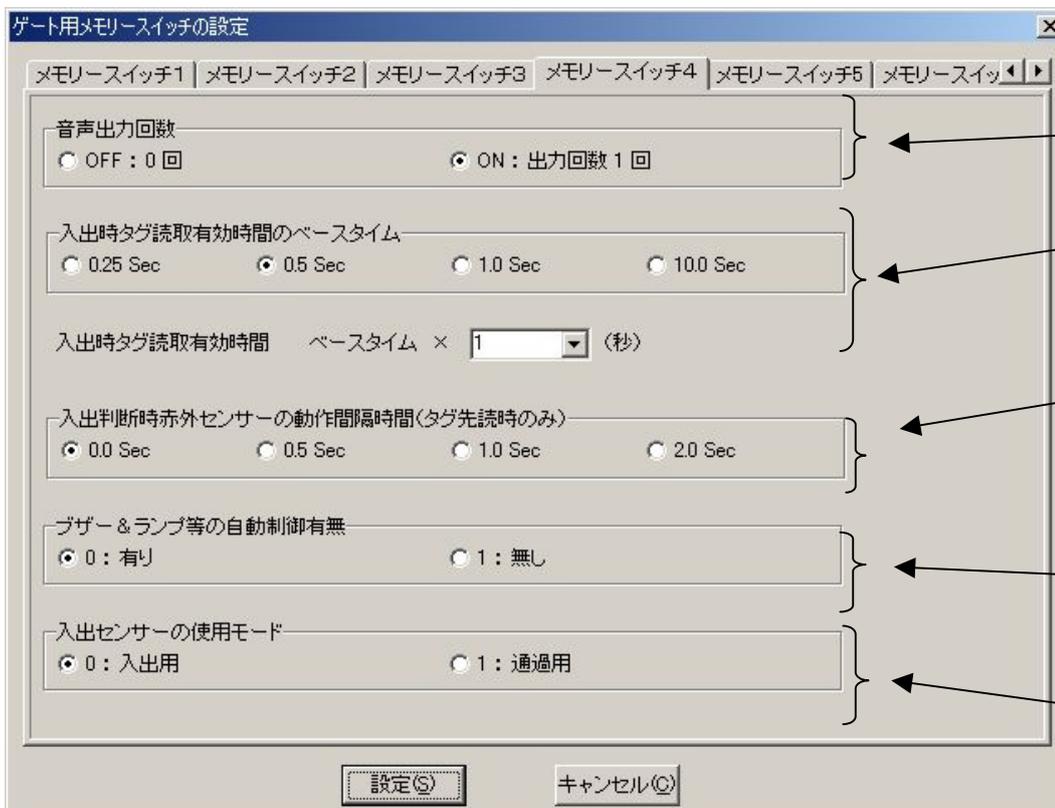
入出判断の「入」時  
ランプ点灯モード変更  
※入出機能なしの場合  
のデフォルト値

入出判断の「出」時  
ランプ点灯モード  
※入出機能使用時のみ  
有効



入出判断の「エラー」時  
ランプ点灯モード  
※入出/通過機能使用時  
のみ有効

音声合成機能実装時に  
有効  
入出判断音声選択  
(オプション)



※オプション機能

音声出力の選択

入出判断時、ゲート  
通過時の読み取りタ  
グの有効時間

次通過者のタグ先読  
みの場合、読み取り  
が無効となる間隔

読取時ランプ自動  
点灯の選択

赤外線センサーの用途  
1 通路 : 入出、通過  
2 通路 : 通過のみ

※オプション機能

ゲート用メモリースイッチの設定

メモリースイッチ1 | メモリースイッチ2 | メモリースイッチ3 | メモリースイッチ4 | メモリースイッチ5 | メモリースイッチ6

入出赤外線センサーセンシング時間 0.01 Sec × 0

入出センサーON/OFF後の無効時間 0.1 Sec × 2

人検知センサーON/OFF間のベースタイム  
 0.25 sec  0.5 sec  1.0 sec  10.0 sec

人検知センサーON/OFF間の時間 ベースタイム × 4

設定 キャンセル

- 赤外線センサーの  
サンプリング時間設定  
(チャタリング防止)
- 焦電センサーの  
サンプリング時間設定
- 焦電センサーが人を  
感知後、電波 ON 状態  
に移行してから電波  
OFF 状態に至るまで  
の間隔

ゲート用メモリースイッチの設定

メモリースイッチ2 | メモリースイッチ3 | メモリースイッチ4 | メモリースイッチ5 | メモリースイッチ6 | メモリースイッチ7

リレー出力連続  
 0 : OFF  1 : ON

リレー出力時間のベースタイム  
 0.25 sec  0.5 sec  1.0 sec  10.0 sec

リレー出力時間 ベースタイム × 0

入出判断モード  
 0 : OFF  1 : 入  2 : 出  3 : 入出

入出センサー 通過方向  
 順方向  逆方向

入出力センサー エラー時レスポンス  
 出力しない  出力する

人センサー  
 無効  有効

EASモード  
 EEPROM有効  EASモード

ランプテストモード  
 無効  テストモード

設定 キャンセル

- タグ読取時の  
リレー出力時間設定
- ゲート動作モードの  
EEPROM 設定値
- メモリースイッチ 2 の  
DIPSW 有効指定  
が EEPROM の時  
に有効



スピーカの音量値  
※G003 用

### 1 3 . 3 表示&出力状態

マニュアルでゲートのブザーやLEDの動作確認をする時に使用します。

動作確認時の出力時間は、EEPROM の設定値を参照しています。

**表示&出力状態**

ブザー/LED制御 | パネルLED/リレー制御

- 入側のブザー/音声出力:  OFF  ON → ON の場合、入側のブザー、または音声を出力
- 出側のブザー/音声出力:  OFF  ON → ON の場合、出側のブザー、または音声を出力
- エラー時のブザー/音声出力:  OFF  ON → ON の場合、エラー時のブザー、または音声を出力
- ランプLED ゲート0点灯:  OFF  ON → ON の場合、メインゲートのランプ LED を点灯
- ランプLED ゲート1点灯:  OFF  ON → ON の場合、サブゲート 1 のランプ LED を点灯
- ランプLED ゲート2点灯:  OFF  ON → ON の場合、サブゲート 2 のランプ LED を点灯
- ランプLED ゲート3点灯:  OFF  ON → ON の場合、サブゲート 3 のランプ LED を点灯
- 基板上的タグ読取確認用LED:  OFF  ON → タグ読取状況の表示(状態表示のみ)  
OFF : 読取無 ON : 読取有

OK キャンセル

**表示&出力状態**

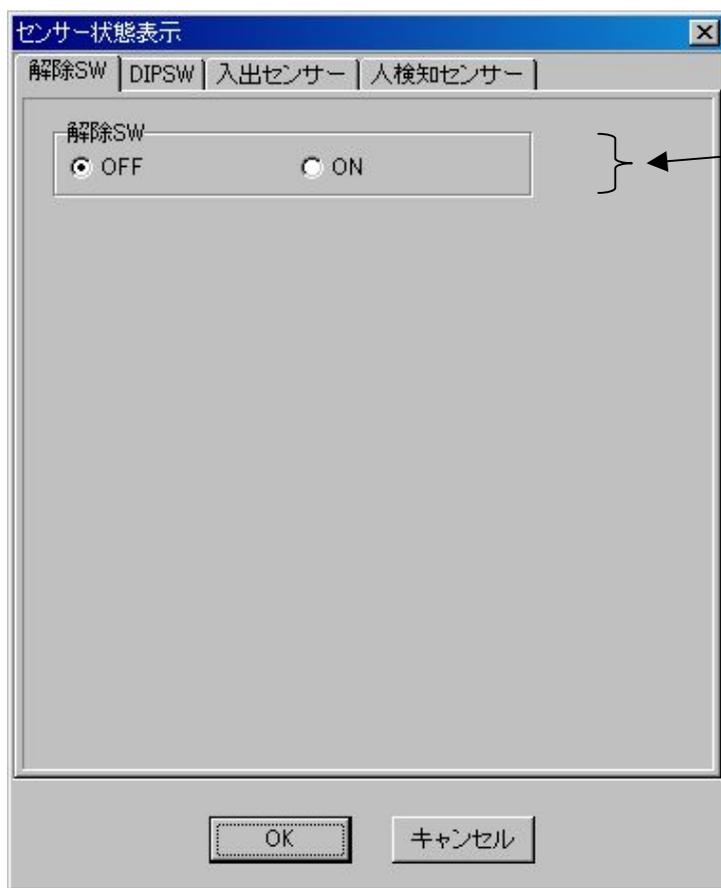
ブザー/LED制御 | パネルLED/リレー制御

- 入側LED:  OFF  ON → パネル基板「入側 LED」の点灯
- 出側LED:  OFF  ON → パネル基板「出側 LED」の点灯
- エラー表示LED:  OFF  ON → パネル基板「エラー表示 LED」の点灯
- 外部リレー出力:  OFF  ON → パネル基板「外部リレー出力 LED」の点灯

OK キャンセル

### 13.4 センサー状態表示

手動操作でゲートのブザー解除 SW 入力やセンサー入力の状態を確認するときに使用します。

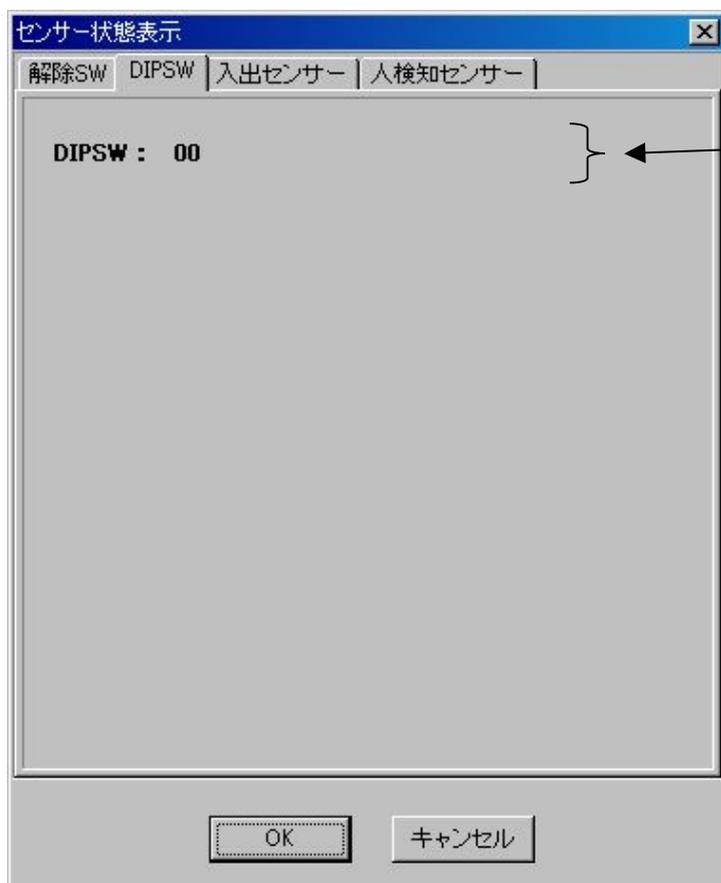


外部 SW の入力状態を表示

OFF : オープン

ON : ショート (GND レベルの信号入力)

ゲートは、タグ読取時一度でも反応すると音出力やランプ点灯を連続動作し続けることができます。外部 SW は、そのモードに入った場合、一旦解除する時に使用します。



DIPSW の状態を表示

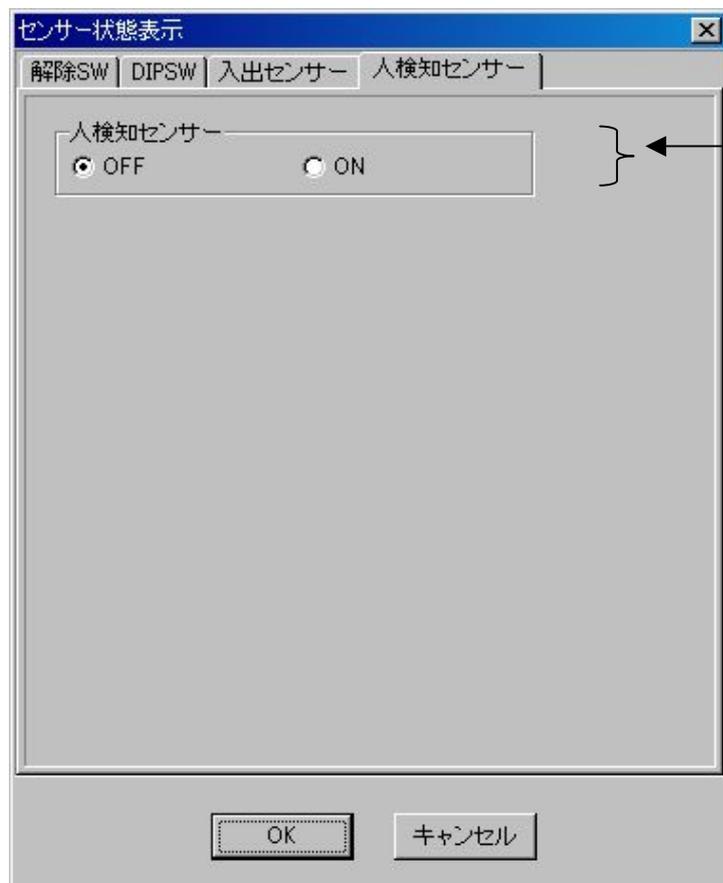
この SW は、スタンダアロンで使用する時に設定する SW です。

ゲートアンテナの動作モードの機能を 8 ビットの 16 進表記で表示しています。

機能は、「G003 通信プロトコル説明書」のゲートの動作モードの取得コマンドの項を参照ください。



- 赤外線センサー 1 遮蔽時 : ON
- 赤外線センサー 2 遮蔽時 : ON
- 赤外線センサー 3 遮蔽時 : ON
- 赤外線センサー 4 遮蔽時 : ON
- 赤外線センサー 5 遮蔽時 : ON
- 赤外線センサー 6 遮蔽時 : ON



人(焦電)センサーの反応時に ON になります。  
 ※G003 は未対応

### 1.3.5 人数カウント設定

人数カウント機能の設定を行う時に使用します。

**人数カウント動作モードの設定**

メモリースイッチ1 | **メモリースイッチ2** | メモリースイッチ3

赤外線センサー1の人数カウント機能  無効  有効

赤外線センサー2の人数カウント機能  無効  有効

赤外線センサー1のアラームカウント機能  無効  有効

赤外線センサー2のアラームカウント機能  無効  有効

赤外線センサー遮光回数の1/2カウント機能  無効  有効

OK キャンセル

センサー遮光時の人数カウントの設定

- ・センサー1 遮光時のカウント機能
- ・センサー2 遮光時のカウント機能

センサー遮光時のアラーム(読取)カウントの設定

- ・センサー1 遮光時読取カウント機能
- ・センサー2 遮光時読取カウント機能

センサー遮光時の人数カウント値の 1/2

---

**人数カウント動作モードの設定**

メモリースイッチ1 | **メモリースイッチ2** | メモリースイッチ3

カウント値の自動送信モード

カウント値のインターバル送信時、ベース時間

カウント値のインターバル送信時、カウント時間(DEC)  
(1~255、0:未使用)

OK キャンセル

自動送信モードの選択

- ・自動送信無し
- ・遮光時毎に上位へ送信
- ・インターバル毎に上位へ送信
- ・インターバル毎に上位へ送信&クリア

インターバル時間単位の選択

- ・分
- ・時間

インターバル時間の設定

ベース時間との組み合わせにより、1分~255時間まで選択が可能。



- センサー遮光時の人数カウントの設定
  - ・センサー 3 遮光時のカウント機能
  - ・センサー 4 遮光時のカウント機能
- センサー遮光時のアラーム(読取)カウントの設定
  - ・センサー 3 遮光時読取カウント機能
  - ・センサー 4 遮光時読取カウント機能
- センサー遮光時の人数カウントの設定
  - ・センサー 5 遮光時のカウント機能
  - ・センサー 6 遮光時のカウント機能
- センサー遮光時のアラーム(読取)カウントの設定
  - ・センサー 5 遮光時読取カウント機能
  - ・センサー 6 遮光時読取カウント機能
- タグ読取の検出時反転モードの設定
 

タグ有：検出    タグ無：検出
- ブザー音の出力先の設定
 

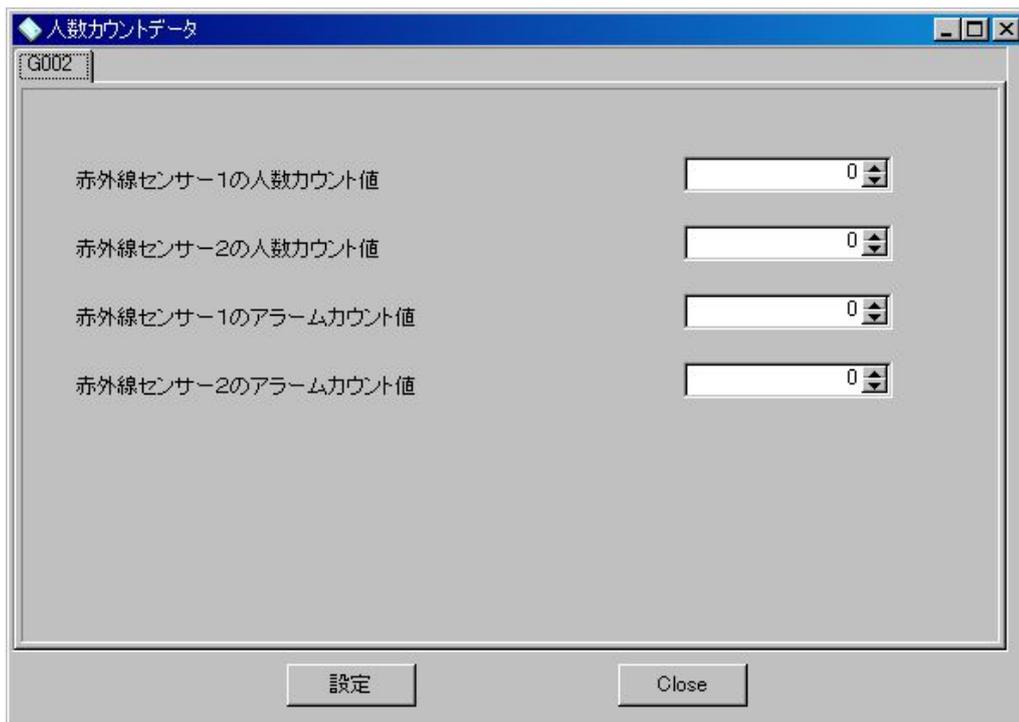
スピーカー：ブザー音のスピーカー出力  
ブザー：ブザー音のブザー出力
- G003 使用時 G002 互換モードの設定
 

有効：カウント値自動送信(80h)  
無効：カウント値自動送信(81h)

G002 と同様の動作をさせる場合は、有効を選択ください。

### 1 3 . 6 人数カウントデータ

センサー遮光時の人数カウント値及びアラーム（読取）カウント値を任意の値へ設定する時に使用します。カウント値のクリアは「0」を設定することで行ってください。また、ゲートの電源が OFF されるとカウントはクリアされます。



### 13.7 人数カウントのタイミングのリセット

カウント値をインターバル毎に送信する場合、時間の同期合わせ（リセット）を行う時に使用します。

### 13.8 人数カウントダイアログ

人数カウントの状況をイメージする為、リアルタイムなカウント値を表示する時に使用します。

人数カウントダイアログ

ゲート1

人数 0 人

アラーム 0 回

ゲート2

人数 0 人

アラーム 0 回

カウントモード

マニュアル  オート

マニュアル時のデータ読み込みタイミング 1 秒

OK キャンセル

センサー1の人数カウント

センサー2の人数カウント

センサー1のアラーム(読取)カウント

センサー2のアラーム(読取)カウント

カウント値の取得モード

マニュアル

PC側から指定タイミングの間隔でカウント値を取得する場合に使用します。

オート

センサー遮光毎、又はインターバル毎のゲート側からの自動送信によりカウント値を取得する場合に使用する。尚、人数カウントの設定メニューで設定した内容で動作します。

### 1.3.9 表示&出力状態 (G003 用)





ON の場合、パネル基板「入側 LED」の点灯

ON の場合、パネル基板「出側 LED」の点灯

ON の場合、パネル基板「エラー表示 LED」の点灯

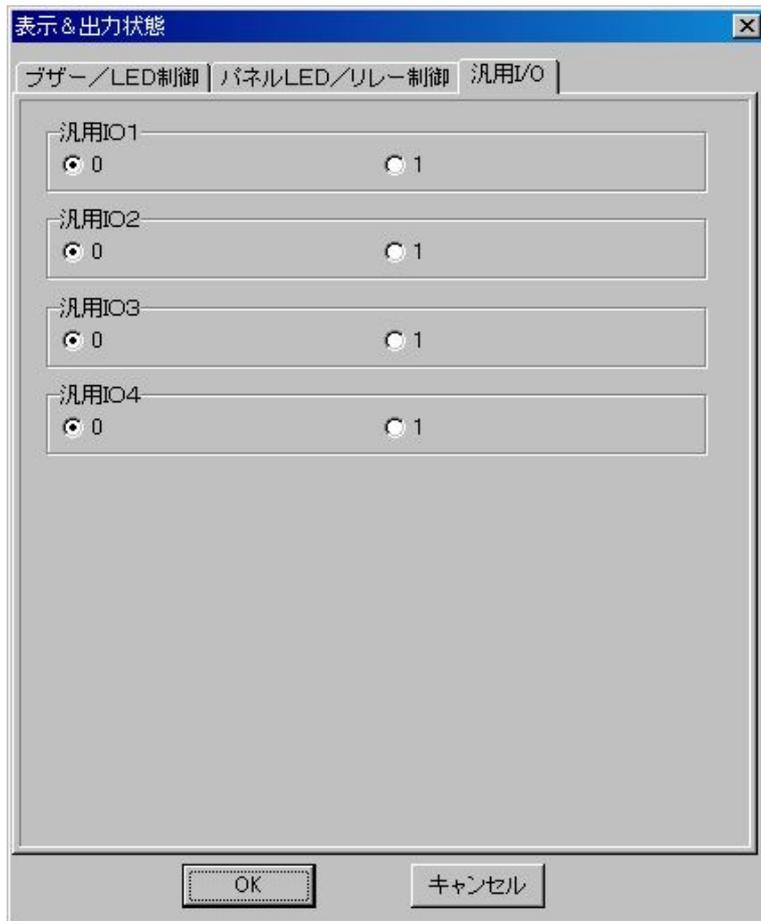
ON の場合、IO 基板「外部リレー(CN6)」の出力

ON の場合、パネル基板「キャリア出力 LED」の点灯

ON の場合、IO 基板「リレー出力 1 (CN7)」の出力

ON の場合、IO 基板「リレー出力 2 (CN8)」の出力

ON の場合、IO 基板「リレー出力 3 (CN9)」の出力



IO 基板「汎用 IO」の出力  
現在は、未対応です。

### 1 3 . 1 0 カウント値 (G003 用)

センサー遮光時の人数カウント値及びアラーム（読取）カウント値を任意の値へ設定する時に使用します。  
カウント値のクリアは「0」を設定することで行ってください。  
また、ゲートの電源が OFF されるとカウントはクリアされます。



### 1 3 . 1 1 電子ボリューム値 (G003 用)

音声出力の音量を変更します。



上位側からスピーカーの音量を変更する場合に使用します。再度、電源を ON した場合にも有効となります。

0 : OFF

1 : 音量(小)～8 : 音量(大)

#### ※使用条件

メインアンテナのパネル基板のボリュームによって動作モードが異なります。

0～8 : パネル基板のボリューム値そのものが音量として有効となります。

9～F : 上位側からの上記設定値が音量として有効となります。

### 1 3 . 1 2 G003 ROMバージョン (G003 用)

G003 のファームのバージョンを取得します。

### 1 3 . 1 3 G003 機種名取得 (G003 用)

G003 機種名を取得します。

### 1.3.14 人数カウントダイアログ (G003 用)

人数カウントの状況をイメージする為、リアルタイムなカウント値を表示する時に使用します。

人数カウントダイアログ2

通路	入	出
通路1	人数: 0 人 アラーム: 0 回	人数: 0 人 アラーム: 0 回
通路2	人数: 0 人 アラーム: 0 回	人数: 0 人 アラーム: 0 回
通路3	人数: 0 人 アラーム: 0 回	人数: 0 人 アラーム: 0 回

カウントモード  
 マニュアル  オート

マニュアル時のデータ読み込みタイミング: 1 秒

保存(Ⓢ) キャンセル(ⓧ)

人数：センサー1～センサー6の  
人数カウント  
アラーム：アラーム（読取）カウント

カウント値の取得モード

マニュアル

PC側から指定タイミングの間隔で  
カウント値を取得する場合に使用し  
ます。

オート

センサー遮光毎、又はインターバル毎  
のゲート側からの自動送信によりカ  
ウント値を取得する場合に使用する。  
尚、人数カウントの設定メニュー  
で設定した内容で動作します。

## 変更履歴

### TR3シリーズデモソフト取扱い説明書

バージョンNo	日付	内容
1.00	2002/ 08/ 23	初版
1.01	2003/ 10/ 20	追加修正
1.02	2004/ 10/ 28	追加修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナ切替え機能の追加</li> <li>・EASの設定機能の追加</li> </ul>
1.03	2005/ 01/ 20	追加修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信インターフェース ボーレート38400bps 追加 (ROMバージョン1.21以降のみ対応)</li> <li>・I/Oポートの設定機能の追加</li> <li>・RS485 I/F用、R/W ID値の設定機能の追加</li> </ul>
1.04	2005/ 03/ 01	図 更新 <ul style="list-style-type: none"> <li>・[5]-(16)S6700の制御モードの設定がイロガ</li> </ul>
1.05	2005/ 04/ 01	商標に関する注意書き追加
1.10	2006/ 10/ 05	追加修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・TR3Demo2, TR3Gate1, TR3Lanc2の共通説明書に仕様変更</li> <li>・通信インターフェース USB、LAN、CFについての説明追加</li> <li>・メニュー項目にある、すべての機能の説明を追加</li> </ul>
1.11	2008/04/17	追加修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・TR3Gate1の更新</li> </ul>

---

タカヤ株式会社 RF事業推進部

[URL] <http://www.takaya.co.jp/>

[Mail] [rfid@takaya.co.jp](mailto:rfid@takaya.co.jp)

---

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。